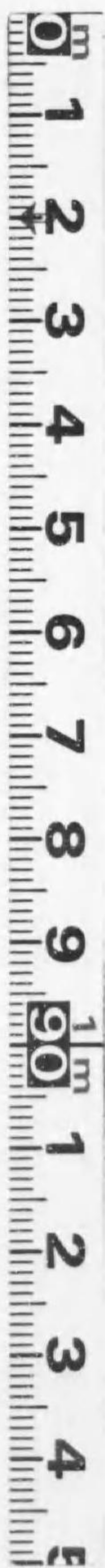


特116

754

憲  
法



始





行  
75

# 憲法

法學士 泉對信之助講述



目次

論

治

家

權

體

法

第二編 統治權ノ總攬者

第一章 天皇

第四章 政治  
第五章 憲法





第二章 皇位繼承  
第三章 攝政  
第三編 統治權ノ客体

第一章 領土  
第二章 臣民

第四編 統治權ノ機關

第一章 帝國議會

第二章 國務大臣

第三章 樞密顧問

第四章 裁判所

第五編 統治權ノ作用

第一章 立法權

第二章 豫算權

第三章 司法權

第四章 憲法上ノ大權

第一節 憲法上ノ大權事項

第二節 命令

第三節 條約



# 憲法

## 第一編 緒論

### 第一章 國家

憲法ハ國體ヲ宣明シ政體ノ大綱ヲ制定スルノ法規ナリ、故ニ憲法ノ何タルヤヲ明ニセムト欲セハ先以テ國家、國體、政體及法ノ何タルヤヲ知ラサルヘカラス、是レ吾人カ第一ニ國家ニ就テ論スル所アラムトスル所以ナリ、國家ハ之ヲ諸種ノ方面ヨリ觀察シ研究スルコトヲ得ヘント雖モ憲法學研究ノ上ヨリスルトキハ之ヲ社會的及法理的ノ兩方面ヨリ觀察研究スルヲ以テ必要ニシテ且充分ナルコトナリト信ス

#### 第一、國家ノ社會的觀念

今日一般ニ認ムル所ノ社會現象トシテノ國家ノ觀念ニ依ルトキハ國家トハ一定ノ土地ヲ基礎トシ固有ノ統治權ニ依リテ結合セラレタル人民ノ團體ヲ謂フ

今此ノ定義ヲ分拆シテ説明スルコト次ノ如シ

一、國家ハ人民ノ團體ナリ

コレ所謂人的要素ニシテ人民アリテ國家アリ人民無ケレハ國家ナシ、唯既ニ人民カ存在スル以上



ハ如何ニ少數ナリト雖モ國家ノ成立要素タルニ於テ缺クル所無シ、而シテ是等ノ人民ハ團體ヲ成セルコトヲ必要トス

團體トハ目的ヲ同ウスル多數人ノ結合ヲ謂フ。詳言スレハ共同ノ目的ヲ共同ノ力ニ依リテ達セムトスル人類ノ合同ニシテ個々ノ人ト離レテ獨立的存在ヲ有シ個々ノ人ノ目的ノ外ニ獨立的目的ヲ有スルモノト認メラレタルモノヲ謂フ故ニ個々ノ目的ヲ以テ偶然時ト所トヲ同フスルモノハ群集ニシテ團體ニアラサレハ勿論同一ノ目的ヲ有スル人多數集合シ一致協力スルコトアルモ未タ社會生活上獨立ノ存在ヲ有スルモノト認メラレサルモノハ團體ニアラサルナリ人類ハ決シテ單獨孤立シテ生存スルコト能ハサルモノナリ、換言スレハ共同生活ハ人類自然ノ本性ナリ故ニ人類ハ家ヲ爲シ部落ヲ爲シ更ニ大ナル團結ヲ爲ス而シテ現今ノ社會變遷ノ程度ニ於テハ國家ハ其ノ最モ大ナル團結ナリト謂フヘシ斯クシテ國家ハ吾人ノ日常生活ノ觀念ニ於テハ獨立的存在ヲ有シ獨立的目的ヲ有スルト認メラル故ニ曰ク國家ハ人民ノ團體ナリト

二、國家ハ一定ノ土地ヲ基礎トナスモノナリ

コレ所謂物的要素ニシテ土地ナケレハ國家ナシ、如何ニ人類ノ團體ヲ存スト雖モ一定ノ土地ヲ基礎トシテ成立セルモノニアラサレハ國家團體タル性質ヲ有セサルナリ、コ、ニ所謂一定ノ土地ヲ基礎トシテ成立スルトハ團體カ一定ノ土地ニ定着シテ離ルヘカラサル關係ヲ有スルヲ云フ、換言

スレハ團體カ一定ノ土地ヲ専ラ占有シ他ノ團體ニ屬スル權力ノ之ニ對スル侵犯ヲ排斥シ其土地ヲ以テ團體ノ構成要素ト爲スヲ云フ、唯既ニ土地カ存在スレハ足ル其ノ面積ノ大小廣狹ハ之ヲ問フコトナク、如何ニ狭小ナル土地ト雖モ國家ノ成立要素タルニ於テ缺クル所ナシ、故ニ曰ク國家ハ一定ノ土地ヲ基礎トスルモノナリト、而シテ國家ノ構成要素トシテノ土地ヲ領土ト謂フ領土ヲ成立ノ要件トスル團體ヲ領土團體ト謂フ故ニ國家ハ一ノ領土團體ナリ

三、國家ハ固有ノ統治權ヲ有スルモノナリ

コレ所謂法的要素ニシテ國家ノ成立ニハ固有ノ統治權ノ存在ヲ必要トス從テ一定ノ土地ト一定ノ人民トカ存在スルモ未タ以テ國家ヲ成スニ至ラス必ヤ土地ト人民トヲ固有ノ統治權ヲ以テ結合スルコトヲ必要トスルモノナリ、唯既ニ固有ノ統治權カ存在スレハ足ル其ノ最高獨立ナルコトヲ必要トスルコトナシ統治權ノ何タルヤハ後ニ詳シク之ヲ説明ス今一言ニシテ之ヲ謂ヘハ統治權ハ命令シ強制シ得ル一般ノ支配權ナリ而シテ權力ハ意思ノ力ナリ弱キ意思ニ對スル強キ意思ノ力ナリ然ルニ國家ノ有スル意思ノ力ハ國家内ニ存スル總テノ個人及ヒ團體ノ意思ノ力ヨリモ強キモノニシテ即統治權ナリトス、然シテ國家ノ有スル統治權ハ國家ノ固有スル所ニシテ他ヨリ承繼シタルモノニアラス換言スレハ他ノ者ノ有スル統治權ヲ讓受ケタルモノニアラス又他ノ者ノ有スル權力ニ依リテ設定セラレタルモノニモアラス而シテ統治權ノ固有ナルコトハ國家カ他ノ總テノ團體



ヨリ區別セラル、顯著ナル標準ナリトス、故ニ曰ク國家ハ固有ノ統治權ヲ有スルモノナリト  
 斯ノ如クシテ國家ハ人民、土地、統治權ノ三者ヲ以テ其ノ成立要件トナスモノナリ、故ニ曰ク、  
 社會現象トシテ國家ヲ觀察スルトキハ一定ノ土地ヲ基礎トシ固有ノ統治權ニ依リテ結合セラレタ  
 ル人民ノ團體ヲ謂フト

## 第二、國家ノ法理的觀念

法律上ノ方面ヨリ觀察スルトキハ國家トハ統治權ノ主体ヲ謂フ詳言スレハ國家ハ法律上ノ人格者  
 ナリ即チ法ノ認知保護スル自主生存ノ主体ナリ而シテ統治權ノ主体ナリトナスモノナリ然レトモ  
 是ノ說ニ對シテハ種々ノ反對說ナキニアラス、故ニ今先其ノ反對說ヲ批判シ然ル後ニ國家ヲ以テ  
 統治權ノ主体ナリトナスノ說ニ及ハムトス反對說ノ主要ナルモノヲ分チテ二トナス、國家客體說  
 ハ其ノ一ナリ、統治關係說ハ其ノ二ナリ

### 一、統治客體說

此ノ說ハ國家ヲ以テ統治ノ客體又ハ目的物トナスモノナリ即チ、私法上ノ所有權ヲ有スル者カ其  
 ノ所有物ニ對スルカ如ク、君主ハ其ノ國家ヲ統治スルモノナリトナスモノナリ

然レトモ所謂家長國時代ハ之ヲ問ハス近世ノ法理觀念ノ下ニ於テハ國家ヲ以テ君主ノ私有物ナリ  
 トナスハ公法私法ヲ混同セルモノニシテ到底許スヘカラサル所ナリ加之權力ニ服從スル者ハ固々

ノ土地及個々ノ人民ナルヲ以テ此ノ說ニ從フトキハ權力服從ノ關係ハ土地及人民ノ數ホト生スル  
 コト、ナリテ遂ニ國家ノ統一性ヲ説明スルコト能ハズ又權力ノ主体ハ實在ノ人タルヲ要スルモノ  
 トセハ實在ノ人ハ永久ニ生存活動スルモノニアラサルヲ以テ現實ノ君主ノ變更ハ即國家ノ變更ヲ  
 來スモノト解スヘク此ノ說ハ遂ニ國家ノ永久性ヲ説明スルコト能ハサルナリ、故ニ吾人ハ此ノ說  
 ヲ採ラス

### 二、統治關係說

此ノ說ハ國家ヲ以テ統治ノ關係又ハ狀態ナリトナスモノナリ、即、一定ノ領土内ニ於テ人民カ權  
 力者ヨリ統治支配セラル、所ノ狀態ナリト爲スモノナリ

然レトモ此ノ說ハ國家ノ事實上ノ性質ト法律上ノ觀念トヲ混同シ事實上ノ關係ヲ以テ直チニ法律  
 上ノ觀念ナリトナスノ誤アルノミナラズ權力服從ノ關係ハ人民ノ數ホト存スルヲ以テ此ノ說ヲ以  
 テシテハ國家ノ統一性ヲ説明スルコト能ハサルノミナラス、刻々ニ變化スル統治關係ノ變更ハ同  
 時ニ國家ノ變更ト認ムルノ外ナキヲ以テ國家ノ永久性ヲモ説明スルコト能ハス、加フルニ狀態又  
 ハ關係ハ外國ト戰爭ヲナシ又ハ條約ヲ締結スル能ハサルヲ以テ此ノ說ハ國際法上ニ於ケル戰爭又  
 ハ條約ノ法理ヲ説明スルコト能ハサルナリ即チ國家ノ活動力ヲ説明スルコト能ハサルナリ故ニ吾  
 人ハ此說ヲ採ラス



### 三、統治主体説

六

此ノ説ハ國家ヲ以テ統治權ノ主体ナリトナスモノナリ、詳言スレハ國家ハ法律上ノ人格者ニシテ  
統治權ノ主体ナリトナスモノナリ、思フニ定義ナルモノハ定義ノ對象タル事物ニ關係ヲ有スル諸  
種ノ現象ヨリ綜合シテ矛盾ナク其事物ヲ説明シ得ルモノナラサルヘカラス、國家ノ法律上ノ定義  
モ亦同シ吾人カ國家ノ意義ヲ定ムルニ當リテ之ヲ如何ニ解スレハ國家ニ關スル種々ノ法律現象  
ヲ矛盾ナク説明シ得ヘキカヲ研究セザルヘカラス此ノ方法ニ依リ構成セラレタルモノカ即前述ノ  
如ク國家ハ統治權ノ主体ナリト法人ナリトスルノ學說ニシテ此ノ説ニ依ルニアラサレハ今日ノ國家  
ニ關スル現象ヲ矛盾ナク説明スルコト能ハザルナリ何ヲ以テカ之ヲ謂フ  
抑人格トハ法ノ認知保護スル自主自存ノ主体タルノ謂ナリ換言スルハ他ノ目的ノ爲メニ設備セラ  
レタルニアラスシテ自己ノ生存ノ爲メニ生存スルモノナルコトヲ法ノ認知保護セルモノナルコト  
ヲ謂フ、國家團體カ自主生存ノ主体ナルコトハ吾人日常ノ經驗ニ依リテ明ナリ、其ノ自主ノ生存  
ヲ法カ認知保護セルコトハ國家ニ人格アルコトヲ前提トスルニアラサレハ何レノ國ノ法律現象モ  
矛盾ナク説明スル能ハサルニ見テ明ナリ若夫人格者タル國家カ統治權ノ主体タルコトハ國家ニ關  
スル法律現象ハ獨リ國家主体説ヲ採ルコトニ依リテノミ之ヲ矛盾ナク説明シ得ルモノナルコトニ  
依リテ明ナリ、故ニ曰ク國家ハ法律上ノ方面ヨリスルトキハ統治權ノ主体ナリト

### 第二章 統治權

國家ハ之ヲ社會的ニ觀念スルトキハ一定ノ土地ヲ基礎トシ固有ノ統治權ニ依リテ結合セラレタル  
人類ノ團體ニシテ之ヲ法理的ニ觀念スルトキハ統治權ノ主体ヲ謂フモノナルコトハ前章ニ於テ之  
ヲ説明セリ、然ラハ統治權トハ何ソ、統治權ノ性質ニ就キテハ前章ニ於テ其ノ大体ノ觀念ヲ説明  
シタリト雖猶一層之ヲ明瞭ナラシムル爲メ左ニ少シク之ヲ説明スル所アラムトス  
統治權トハ命令強制シ得ル一般の支配權ヲ謂フ

今此ノ定義ニ基キテ統治權ノ性質ヲ説明スルコト次ノ如シ

#### 一、統治權ハ權力ナリ

權力トハ強キ意思ノ弱キ意思ニ對スル力ヲ謂フ、即統治權ノ本質ハ第一ニ意思ノ力ナリ故ニ腕力  
ノ如キ自然物質上ノ力ハ權力ニアラス第二ニ統治權ハ弱キ意思ニ對スル強キ意思ノ力ナリ故ニ統  
治權ノ觀念ハ意思力ニ強弱ノ差等ノ存在スルコトヲ前提トス凡社會ニ於テ相對スル意思ノ力ハ平  
等ナルカ否ラサレハ不平等ニシテ二者ノ一ヲ出ツルモノニアラス統治權ハ其ノ不平等ナル意思ノ  
間ニ於テノミ存在スルモノナリ故ニ曰ク統治權ハ權力ナリト

#### 二、統治權ハ命令シ強制シ得ルノ權力ナリ

統治權ハ弱キ意思ニ對スル強キ意思ノ力ナリ然レトモ弱キ意思ニ對スル強キ意思ノ力ハ總テ統治

七



權ナリト謂フヲ得ス若シ弱キ意思ニ對スル強キ意思ノ力ハ總テ統治權ナリトセハ團體ノ多クハ團體員ヨリモ強キ意思ヲ有スルカ故ニ團體ハ概テ統治權ヲ有スト謂ハサルヘカラサルノ不條理ニ陥ルヘシ此ニ於テ統治權ト他ノ總テノ弱キ意思ニ對スル強キ意思ノ力トノ間ニ存在スル差異即統治權ノ特質ヲ究ムルノ必要アリ、而シテ其ノ特質ハ命令シ強制シ得ルト支配ノ一般的ナルトノ二点ニ在リ後者ニ就テハ之ヲ後ニ説明ス、統治權ハ命令ヲ下シ其ノ命令ニ服從セサルモノアル場合ニ於テハ之カ遵奉ヲ強制シ得ルノ特質ヲ有ス、命令強制ハ統治權カ他ノ總テノ意思力ト區別セラル、顯著ナル標準ナリ、故ニ曰ク統治權ハ命令シ強制スルノ權力ナリト

如斯命令強制ハ統治權ノ特質ナリト雖命令強制ノミヲ以テ統治權ノ作用ナリト誤解セサラムコトヲ要ス統治權ハ自ラ必要トスル場合ニハ其本來ノ特質ニ基キ命令ヲ強制スト雖然ラサル場合ニハ必シモ命令ヲ強制スルモノニアラサルモノナリ

### 三、統治權ハ一般的ノ支配權ナリ

國家ノ統治權ハ或限ラレタル事物ヲ支配スルコトヲ得ルニ過キササルモノニアラスシテ廣ク社會一般ノ事物ヲ支配スル事ヲ得換言スレハ國家ノ目的タル社會ノ安寧幸福ノ保全即チ國家ノ生存繁榮ノ爲メニ其必要ト思惟スル一切ノ方法ヲ適用スルコトヲ得ルモノトス、故ニ統治權支配ノ範圍ヲ特定ノ社會事物ニ依リテ示スコト能ハサルナリ然レ共統治權ノ實際ノ管轄權ハ常ニ必スシモ

社會一般ノ事物ニ及フモノニハアラス是レ特ニ聯邦制度ノ國家ニ付キテ見ル所ナリト雖統治權本來ノ性質ト統治權ノ實際ノ管轄權トハ區別スヘキモノナルヲ以テ、實際ノ管轄權ニ對スル制限アレハトテ統治權ノ本來ノ性質ノ一般的支配ヲ妨ルモノニアラス、故ニ曰ク統治權ハ一般的支配權ナリト要之統治權ハ統治スルノ權力即命令シ強制シ得ル一般的ノ支配權ヲ謂フモノナリ

### 四、統治權ハ唯一不可分ナリ

國家ハ統一的ノ團體ナリ從テ其ノ團體ノ意思力タル統治權ノ唯一ナルヘキハ事理ノ當然ニ要求スル所ナリ既ニ唯一ナリ從テ其ノ不可分ナルコトハ唯一ナルコトヨリ生スル當然ノ性質ナリトス昔モンテスキューハ三權分立說ヲ唱ヘ統治權ヲ分テテ立法權、司法權及ヒ行政權ノ三ト爲シ此ノ分割セラレタルモノハ各獨立對等ノ權力ナリト唱ヘタリ然レトモ若シ然リトセハ三權ノ分立ハ三國ノ對立トナリテ國家ノ統一的性質ニ反スヘシ所謂三權ノ分立ハ權力其ノモノ、分割ニアラス權立ノ作用ノ分割ナリ猶之ニ付キテハ後ニ政体ノ章ニ於テ説明ス故ニ曰ク統治權ハ不可分ナリト

### 五、統治權ハ國家ニ於テハ固有ナリ

此点ニ於テ國家ノ有スル統治權ハ公共團體ノ有スル自治權トハ同シカラス、公共團體ノ有スル支配權ハ其ノ團體カ固有スル權力ニアラスシテ國家統治權ノ委任ニヨリテ與ヘラレタル權力ナリ故ニ國家ハ隨意ニ其ノ權力ヲ回收スルコトヲ得ルモノトス、反之國家ノ統治權ハ國家ノ固有スル所



ニシテ他ヨリ附與セラレタルモノニアラス從テ其ノ國家ノ滅亡セサル以上ハ他ヨリ回收セラル、コトナキモノナリ故ニ曰ク國家ノ有スル統治權ハ固有ナリト

六、統治權ハ最高獨立ナルコトヲ必要トセス  
 統治權ハ最高獨立ナルコトヲ必要トスルモノニアラス、最高トハ内部關係ニ於テ國家内ニ於ケル凡テノ人及物カ國家ノ權力ニ服從スルコトヲ謂ヒ、獨立トハ對外關係ニ於テ國家カ他ノ權力ニ依リ制限セラレサルコトヲ謂フ多クノ國家ハ所謂單一國ニシテ、近世ニ於ケル單一國ノ統治權ハ多クハ最高獨立ナリ、故ニ學者或ハ最高獨立ナルコトヲ以テ統治權ノ要素ナリト爲ス然レトモ是誤レリ、蓋斯ル說ニ從ヘハ政治上ノ實際ト歷史上ノ沿革トヲ無視スルニアラサレハ彼ノ聯邦及ヒ之ヲ組織スル各邦ハ何レモ國家ナリト説明スル能ハサルニ至ルヘケレハナリ、而シテ所謂主權ナル語ハ或ハ統治權ノ最高獨立ナル性質ヲ指稱シ、或ハ最高獨立ナル統治權ヲ指稱ス、前者ノ意味ニ於テハ主權ハ統治權ノ要素ニアラス、後者ノ意味ニ於テハ主權ハ國家ノ要素ニアラスト謂フヘキナリ、唯我國ニ於テハ統治權ハ最高獨立ノ性質ヲ有ス從テ主權ナル語ヲ第一ノ意義ニ解スレハ我國ノ統治權ハ主權ノ要素ヲ具備スルモノト稱スヘク第二ノ意義ニ解スルトキハ我國ノ統治權ハ之ヲ主權ト言フモ何等異ナル所ナシ是注意セサルヘカラサル所ナリ

### 第三章 國 體

憲法ハ國體ヲ宣明シ政體ノ大綱ヲ制定スルノ法規ナリ故ニ國體政體ノ何タルヤハ憲法研究上極メテ重要ナル事項ニ屬ス、今本章ニ於テハ國體ニ關スル説明ヲナシ、次章ニ於テ政體ニ關シテ説明ヲナスヘシ

國體トハ統治權ノ總攬者ノ組織區別ニ基ク國家ノ體様ヲ謂フ、凡ソ國家ニ於テ法ト權力ト人格者トハ一定ノ段階、一定ノ程度ニ於テハ其ノ存在ニ前後ナシ國家ノ成立ノ程度ニ於テ亦同シ國家ノ成立ニ關シテ最小限度ニ於テ存在セサルヘカラサルモノハ法トシテハ建國法、權力トシテハ統治權國法上ノ人格者トシテハ統治權ノ總攬者ノ三ナリトス、而シテ此ノ三者ハ其ノ存在ニ於テ前後ナク相俟ツテ國家ヲ成スモノナリ國家アリテ然ル後ニ建國法アリ統治權アリ統治權ノ總攬者アルニアラス反對ニ此等ノ三者アリテ始メテ國家アルニモアラス他方ニ於テ此ノ三者ハ其ノ相互間ノ關係ニ於テモ其ノ存在ニ前後ナシ其ノ一ヲ缺キテ他ノ存在ヲ認ムルコトヲ得サルナリ  
 今此ノ理ニ基キテ國體ノ本質ヲ説明スルコト次ノ如シ

一、國體ハ統治權ノ總攬ニ基ク國家ノ體様ナリ(權力ノ方面ヨリスル觀察)

國家ハ社會的ノ現象トシテ觀察スルトキハ一定ノ土地ヲ基礎トシ固有ノ統治權ニ依リテ結合セラレタル人民ノ國體ニシテ法理的ノ觀念ニ於テハ統治權ノ主体ナリ、故ニ統治權ハ國家成立ノ基本的ナル要素ニシテ法理上ニ於テハ如何ナル國家ニ於テモ國家自身ニ歸屬シ別ニ異同アルコトナシ



從テ學者或ハ國体ト政体トノ區別ヲ否認スルモノアリ然リト雖法理上ニ於テ國家カ統治權ノ主体ナリトノ前提ハ必シモ事實上ニ於テモ統治權即國權タル意思ヲ具有スルモノカ國家ナル法人格ナリトノ結論ヲ來タスモノニアラス國家ハ自然人ノ如ク自然意思ヲ有スルモノニアラス何人カノ事實上ノ意思カ國家ノ法理上ノ意思ト看做サル、モノナラサルヘカラス此ノ國家ノ法理上ノ意思ノ基礎トナリ中心力トナルコト即統治權ノ總攬ハ語ヲ換ヘテ言ヘハ統治權存立ノ問題ナリ故ニ曰ク國体ハ統治權ノ存立ニ關スル國家ノ体様ナリト

二、國体ハ建國法ノ定ムル國家ノ体様ナリ(國法ノ方面ヨリスル觀察)

思フニ國家ノ体制ハ統治權ノ成立ト共ニ確定ス而シテ統治權ノ成立ハ統治權ノ總攬者ノ確定ト同時ニ確定シ又統治權ノ總攬者ノ何人タルカハ建國法ノ定ムル所ナリ知ルヘシ國法ト國權ト國法上ノ人格者トハ其ノ最小限度ニ於テハ互ニ存在ニ前後ナキコトヲ、故ニ曰ク國体ハ建國法ノ定ムル國家ノ体様ナリト

三、國体ハ統治權總攬者ノ確定ニ基ク國家ノ体様ナリ(人格者ノ方面ヨリスル觀察)

夫レ國家ニ於テ國法ト國權ト國法上ノ人格者トハ一定ノ段階一定ノ程度ニ於テハ其ノ存立ニ前後ナシ從テ國家ノ成立ノ程度ニ於テモ二者相前後ナキハ前述シタル所ナリ故ニ國家ノ体制ハ統治權ノ總攬者ノ確定スルト共ニ確定ス、統治權ノ總攬者ハ常ニ建國法ヲ生セシメ同時ニ建國法ニ依リ

テ自己ノ統治權ノ總攬者タルコトヲ定メラル此ノ統治權ノ總攬者ノ確定ニ基ク國家ノ体様ハ各國必シモ一ナラス之即國体ナリ

國体ヲ分テテ君主國体及共和國体ニ分ツヲ通常トス是レ統治權ノ存立ノ体様即建國法ノ定ムル統治權ノ總攬者ノ數ノ單復如何ヲ標準トセルモノナリ思フニ國体ハ之ヲ社會的方面ヨリ觀察スルトキハ歴史ノ結晶タル國民ノ確信ニ基キテ定マルモノナリトス然ルニ國民ノ確信ハ古今東西必シモ一ナラス從テ古今東西ニ於ケル總テノ國体ヲ列舉シ分類スレハ事頗困難ナリ然リト雖統治權總攬者ノ數ハ一人ナルカ數人ナルカ二者其ノ一ヲ出ツルモノニアラス從テ此ノ標準ハ近世文明國ニ於ケル國体ヲ分類スル上ニ於テ困難ヲ感セサルヲ以テナリ

#### 一、君主國体

君主國体トハ特定ノ一人即君主ヲ以テ統治權ノ總攬者トナス國家ヲ謂フ

君主國体ニ於テモ統治權ノ主体ハ國家ニシテ君主ハ統治權ノ總攬者ナリ、統治權ノ總攬者トハ其者ノ事實上ニ於ケル意思カ法理上ニ於ケル國家ノ統治權ノ中心力トナリ、總テノ國家内ノ權力ハ之レニ其ノ基ヲ發スルモノヲ謂フ故ニ事實上ノ方面ヨリ見ルトキハ君主ハ自己固有ノ權力ヲ自己ノ名義ニ於テ行フモノニシテ、法理上ノ方面ヨリ見ルトキハ國家ニ屬スル統治權ヲ國家ノ名義ニ於テ行フモノタルナリ唯法理上ノ方面ヨリ觀察スルモ、其ノ國家内ニ於ケル有ユル權力ノ基礎タ



リ中心力タル点ヨリ見ルトキハ君主即國家ナリ、之ヲ是統治權ノ總攬者ノ性質ナリトス、而シテ君主ヲ以テ統治權ノ總攬者トナスノ國家ハ即君主國体ナリ

## 二、共和國体

共和國体トハ二人以上ヲ以テ統治權ノ總攬者トナス國体ヲ謂フ、共和國体ヲ分チテ又二トナス一ハ貴族國体ニシテ一ハ民主國体ナリ、貴族國体ハ貴族ヲ以テ統治權ノ總攬者トナス國体ナリ然レトモ今日ノ世界ニ其實例ナキヲ以テ今コトニハ之ヲ説カス、民主國体トハ人民全体ヲ以テ統治權ノ總攬者トナス國家ヲ謂フ

民主國体ノ下ニ於テモ法理上ニ於テハ統治權ノ主体ハ國家ナリ、人民ハ統治權ノ總攬者ニ過キス既ニ統治權ノ總攬者ナルカ故ニ人民ノ行フ所ノ權力ハ事實上ニ於テハ人民固有ノ權力ヲ自己ノ名義ニ於テ行フモノニシテ法理上ニ於テハ國家ニ屬スル權力ヲ國家ノ名義ニ於テ行フナリ、唯法理上ノ方面ヨリ觀察スルモ人民ハ其國家内ニ存在スル有ユル權力ノ基礎タリ中心力タルヲ以テ此ノ点ヨリ觀ルトキハ人民即國家ナルコトハ君主國体ノ場合ニ於テ君主即國家タルト差異ナキナリ

## 第四章 政 体

政体トハ統治權行使ノ形式ニ基ツク國家ノ体様ヲ謂フ、國家内ニ於テ國法ト國權ト國法上ノ人格

者トハ一定ノ段階一定ノ程度ニ於テハ其ノ存立ニ前後ナシ、故ニ統治權ノ行使即國家ノ完全ナル發達ニ必要ナル國權行使ノ形式ニ關スル程度ニ於テモ亦然リ故ニ政体モ亦此ノ程度段階ニ於テ三方面ヨリシテ分拆シテ觀察スルコトヲ要スルナリ、

### 一、政体ハ統治權行使ノ形式ニ關スル國家ノ体様ナリ(權力ノ方面ヨリスル觀察)

國体ハ統治權ノ存立ニ關シ政体ハ統治權ノ行使ニ關ス故ニ國体カ法理上國家ニ屬スル統治權ヲ事實上何人カ存立セシムルカノ問題ナルニ反シ政体ハ國家ニ屬スル統治權ヲ統治權ノ總攬者カ如何ナル方法形式ニ於テ行使スルカノ問題ナリ

### 二、政体ハ憲法ノ定ムル國家ノ体様ナリ(法ノ方面ヨリスル觀察)

國体ハ建國法即最小限度ノ國法ノ定ムル國家ノ体様ナリ之ニ反シテ政体ハ憲法ノ定ムル國家ノ体様ナリ故ニ國体ニ關シテハ憲法ハ建國法ニ依リテ既ニ定マレル事實ヲ確認シ宣明スルニ過キサレニ反シ政体ハ憲法ヲ俟テ始メテ制定セラル、國家ノ体様ナリ

### 三、政体ハ統治權ノ行使ニ必要ナル機關ノ確定ニ基ク國家ノ体様ナリ(人格者ノ方面ヨリスル觀察)

國体ハ統治權ノ總攬者ノ確定ニ基ク國家ノ体様ナリ之ニ反シテ政体ハ統治權ノ行使ニ必要ナル機關ノ確定ニ基ク國家ノ体様ナリ、蓋統治權ノ總攬者ハ繁雜ナル一切ノ政務ヲ自ラ行フコトヲ得サ



ルモノナルカ故ニ種々ノ機關ヲ設ク是等ノ機關ノ地位權限等ニ關スル体様ハ即政体ナリ  
國体ト政体トノ差異實ニ斯ノ如シ其結果トシテ

一、國体ハ同シクシテ政体ノ異ナルコトアリ反對ニ國体ヲ異ニシテ政体ヲ同シクスルコトアリ兩者ハ互ニ相交渉スル所ナシ

二、國体ノ變更ハ革命ナリ、舊國家滅亡シテ新國家興起ス政体ノ變更ハ改革ナリ時勢ノ須要ニ應シテ政体ノ變更ヲ生スルモ爲メニ國体ノ變更ヲ生スルモノニアラス

三、國体ハ歴史ニ基ク國民ノ確信ニ依リテ定マリ成文法典ニ依リテ定マルニアラス政体ニ關シテモ其ノ大原則ハ固ヨリ國民ノ希望輿論ヲ無視シテハ永ク之ヲ維持スルコト能ハサルヘキモ然モ國民ノ希望輿論ハ唯統治權ノ總攬者カ政体ヲ定ムルノ參考トナリ又ハ動機トナルニ過キス國民ノ希望輿論其モノニヨリテ政体カ定マルニアラサルナリ

政体ヲ分チテ專制政体及ヒ立憲政体ニ分ツヲ通常トス是レ現時ニ於ケル政治上重要ナル關係ヲ有スルカ爲メニ爲ス所ノ區別ニシテ政体ノ種類ハ固ヨリ此ノ二種ニ限レルニアラス蓋政体ハ時勢ノ須要ニ應シテ定メラレ又變遷スルモノニシテ理論上一定セルモノアルコトナシ、國ニ依リ時代ニ依リテ相異ナリ、國体ノ區別ノ如ク明瞭簡單ニ其ノ種類ヲ列舉シ盡スコトヲ得ルモノニアラサルハナリ

專制政權トハ統治權ノ作用ヲ立法司法及行政ノ三種ニ分タス一人若クハ一團體ニ兼併シテ專行スルノ政体ヲ謂ヒ立憲政体トハ統治權ノ作用ヲ立法司法及行政ノ三種ニ分チ各相獨立シ且相異ナル機關ニ依リテ行使スルノ政体ヲ謂フ

即知ル專制政体ト立憲政体トノ區別ハ權力ノ分立ヲ主義トスルヤ否ヤニ在ルコトヲ而シテ權力分立說ハ實ニモシテスキューノ最完全ニ唱說シタル所ナリ、モンテスキューハ統治權ヲ分チテ立法權司法權及執行權ノ三トナシ此等三種ノ權力ハ別異ノ人ヲシテ行ハシムルニアラサレハ政治上ノ權利及自由ハ到底完全ニ保障スルヲ得ス故ニ立法權ハ議會、司法權ハ裁判所ニ屬セシメ君主ハ單ニ執行權ノミヲ有シ、且ツ此等三種ノ權力ハ平等獨立ノ地位ヲ有シ相互ニ他ノ權力ニ參與スルコトヲ得サラシメ三權互ニ相控制シテ以テ權利自由ノ保障ヲ全ウセムトシタリシナリ

モンテスキューノ三權分立論ニ對シテハ種々ノ非難アリト雖就中其ノ最根本的ナルハ國家ノ統治權ハ唯一ニシテ不可分ナリ、然ルニ之ヲ立法司法行政ノ三權ニ分ツト謂フハ國家ノ分割トナリテ非ナリト謂フニアリ、然レトモ此種ノ非難ハ單ニ其ノ說ノ形式ニ拘泥シテ非難セルモノノミ三權分立說ノ眞意ハ統治權其モノ、分割ニアラスシテ統治權ノ作用ノ分割ニ在リ、故ニ此ノ非難ハ採用スルニ足ラサルナリ

兎モ角モ立憲政体ハ三權ノ分立ヲ主義トスル政体ナリ、今之ヲ分拆シテ說明スルコト次ノ如シ



一、立憲政体ハ統治權ノ作用ヲ分割ス

三權ノ分立ナル語ハ統治權其モノヲ分割スルカ如クナレトモ是非ナリ統治權ハ唯一ニシテ不可分ナリ之ヲ分ツハ國家ノ分割トナルヘシ、統治權ノ作用ヲ分ツナリ、立法權ト謂ヒ司法權ト謂ヒ行政權ト謂フモ唯別途ノ方面ヨリ統治權ヲ觀察シタルニ過キササルナリ、

二、立憲政体ハ統治權ノ作用ノ機關ヲ分割ス

三權分立說ハ統治權其モノヲ分割スルニアラサルハ勿論ナリト雖又單ニ統治權ノ作用ノミヲ分ツニアラス蓋統治作用ハ如何ニ之ヲ分類スルモ之カ機關ヲ分ツニ非レハ以テ人ノ權利自由ヲ保障スルニ足ラサレハナリ、故ニ曰ク立憲政体ハ統治權ノ三作用ヲ分類スルニ止マラス、三作用ヲ行フノ機關ヲ分ツモノナリ

三、立憲政体ハ統治權ノ三作用ヲ行フノ機關ヲ別異ノ人ニヨリテ組織スルヲ趣旨トナスモノナリ立法司法及行政ヲシテ各別異ノ機關ヲシテ行ハシムルノ趣旨ハ別異ノ人ヲシテ各機關ヲ組織セシムルニヨリテ初メテ之ヲ達スルコトヲ得ヘシ、換言スレハ同一人カ立法者トシテ立法シ行政官トシテ行政シ司法官トシテ司法スルコトヲ認ムルトキハ三作用ヲ各別異ノ機關ヲシテ行ハシメ以テ專横ヲ防止スルノ趣旨ハ没却セララルヘシ、故ニ曰ク立憲政体ハ同一人カ三作用ニ關與スルヲ禁スルヲ以テ趣旨トナスモノナリト

四、立憲政体ハ統治權ノ三作用ヲ互ニ獨立セル機關ヲシテ行ハシムルモノナリ

立法司法及行政ノ機關ハ互ニ相獨立ス三者互ニ固有ノ畛域ヲ有シテ互ニ相干犯スルコトナシ之レ互ニ相干犯シ得ルモノトセハ遂ニ三權互ニ相控制シテ以テ權力ノ濫用ヲ防遏スルノ目的ヲ全ウシ得サレハナリ

即知ル、立憲政体ハ三權ノ分立ヲ主義トスル政体ナリ、詳言スレハ統治權ノ作用ヲ立法司法行政ノ三ニ分チ、此ノ三作用ヲ互ニ相獨立シ且別異ノ人ニ依リテ組織セラル、政体ナリ、唯斯ク言ヘハトテ立憲政体ハ三權分立說ヲ其儘ニ採用セル政体ナリト誤解セサラムコトヲ要ス、蓋三權分立說ヲ其ノ儘ニ採用スルハ統治作用ノ統一圓滿ヲ害スルモノニシテ事實上能ハサル所ナルカ故ニ如何ナル立憲政体ノ國ト雖モ此ノ說ヲ其儘ニ採用スルコトナリ、統治作用ノ統一ヲ害セサル範圍内ニ於テ此ノ說ノ精神ヲ採用セルニ過キササルナリ

## 第五章 憲法

73 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ此場合ニ於テ兩議院ハ各ニ其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非レハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

74 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス



皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條項ヲ變更スルコトヲ得ス

75 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

76 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス

議出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

憲法ハ國体ヲ宣明シ政体ノ大綱ヲ制定スルノ法規ナリ

今此ノ定義ニ基キテ憲法ノ意義ヲ説明スルトキハ

イ、憲法ハ法規ナリ

法規トハ統治權者ノ命令セル人類共同生活ノ規則ナリ、憲法ハ統治權ノ總攬者ノ制定シタル人類共同生活ノ規則ナリ、唯其ノ強制力ヲ如何ナル程度範圍ニ於テ具有スルカニ關シテハ議論ナキニ非スト雖然モ天皇カ統治權ヲ總攬スルニハ憲法ノ條規ニ依ル可ク(憲法四)國家機關ノ統治作用ニ參與スルモ亦固ヨリ此ニ依ルヘキノミナラス、其ノ臣民ニ對シテ強制力ヲ具有スルノ點ニ關シテハ疑ナシ、故ニ曰ク憲法ハ法規ナリト

ロ、憲法ハ國体ヲ宣明スルノ法規ナリ

國体ノ何タルヤハ前既ニ之ヲ説明セリ、國体ハ建國法ノ定ムル國家ノ体様ナリ憲法ノ能ク左右ス

ル所ニ非ス憲法ハ唯此ノ既定ノ事實ヲ確認シ宣明スルニ過キス故ニ曰ク憲法ハ國体ヲ確認スルノ法規ナリト

ハ、憲法ハ政体ノ大綱ヲ制定スルノ法規ナリ

政体ノ何タルヤハ前既ニ之ヲ説明セリ、政体ハ憲法ノ定ムル國家ノ体様ナリ即政体ハ憲法ヲ俟ツテ始メテ生ス、然モ憲法ハ政体ノ大綱ヲ規定スルノミ其ノ細目ハ憲法以下ノ法律命令等ノ規定スル所ナリ故ニ曰ク憲法ハ政体ノ大体ヲ制定スルノ法規ナリト

以上三個ノ説明ヲ綜合シテ之ヲ謂フトキハ憲法ノ本質ハ法規ナリ其ノ一半ハ國体法ナリ他ノ一半ハ政体法ナリ

國体ト政体トニ關スル法規ハ相合シテ一ノ憲法ナル全体ヲ構成ス

憲法ノ意義斯クノ如シ、今之ニ關シテ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

第一、憲法ノ性質

憲法ハ公法ナリ

法ハ之ヲ公法ト私法トニ分ツヲ通常トス、然レトモ其ノ區別ノ標準如何ニ關シテハ學說一定セサ



ルナリ、其ノ主要ナルモノヲ分チテ三トナス、目的說、法律關係說及主体說即之ナリ  
吾入ノ正當ト信スル所ニ依レハ公法トハ統治權ニ關スル法規ナリ、詳言スレハ統治權ノ主体トシ  
テノ國家及公共團體ニ關スル法規ニシテ私法トハ公法ニ非サル法規ヲ謂フ憲法ハ國体ヲ宣明シ政  
体ノ大体ヲ制定スルノ法規ニシテ國体及政体ノ統治權ニ如何ナル關係ヲ有スルカハ前既ニ之ヲ述  
ヘタリ故ニ曰ク憲法ハ公法ナリト

## 第二、憲法ノ淵源

憲法ノ淵源トシテ論スルヲ要スルモノ左ノ如シ

### 一、大日本帝國憲法 (二二二、二、一一)

是形式的意義ニ於ケル憲法ニシテ實ニ明治二十二年二月十一日ノ發布ニ係ル、憲法ノ淵源中最主  
要ナルモノナリ

### 二、皇室典範 (二二二、二、一一)

皇室典範ハ皇室内ノ家法ニ非シテ實ニ憲法ノ淵源ヲナスノ重要ナル國法ナリ是レ、憲法ノ規定  
ニ見ルモ將又皇室典範ノ内容ニ見ルモ更ニ疑ヲ容レサル所ナリ (憲法2、17參照)

### 三、皇室令

皇室令ノ性質ニ付キテハ議論アリ其内容カ主トシテ皇室内部ノ私事ヲ規定シタルノ點ヨリ見テ國

法タルノ効力ヲ有スルモノニアラストナスモノアレトモ、君人ハ我帝國ノ國体及皇室令ノ規定ヨ  
リ見テ之ヲ否ナリトス、即皇室令モ亦皇室典範ト同シク皇室内ノ家法ニアラスシテ實ニ憲法ノ一  
淵源タルモノナリ

### 四、憲法施行前ノ法律命令 (76)

法律命令ハ國家統治權ノ意思ノ發表ナリ故ニ一旦之ヲ發シタル以上ハ之ヲ廢止スルカ又ハ國家ノ  
滅亡セサル限り永續的ノ効力ヲ有ス從テ憲法ヲ發布スルモ之ニ抵觸セサル限り從前ノ法令ハ當然  
ニ消滅スルモノニアラス故ニ我憲法ハ規定シテ曰ク「法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用井タルニ  
拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス」ト

### 五、憲法施行後ノ法律命令

現行衆議院議員選舉法、公式令ノ如キハ憲法施行後ノ法令ニシテ憲法ノ淵源タルモノノ重要ナル  
モノナリ

### 六、國際條約

國際條約カ憲法ノ淵源タルヤ否ヤハ頗ル議論ノ存スル所ナリ、吾人ハ法理論トシテハ條約ノ内容  
カ直接國民ノ權利義務ヲ定ムルモノニシテ且憲法上ノ立法事項ニ關セサル場合ニ限り憲法ノ淵源  
タリ得トノ說ヲ可ナリト信スレトモ我國ニ於ケル現行ノ慣例ニ依レハ國際條約ハ其内容如何ニ拘



ラス之ヲ條約トシテ公布スルトキハ一般國民ヲ拘束スルモノトセリ (第五編條約ノ部參照)

## 七、慣習法

慣習法カ憲法ノ淵源タルヤ否ヤモ頗ル議論ノ存スル所ナリ、或ハ曰ク憲法上立法權ノ行使ニハ一定ノ形式ヲ要ス故ニ此ノ形式ニ依ラサル國法ノ成立ハ認ムルヲ得スト、然レトモ憲法ハ唯成文法制定ノ手續ヲ定メタルニ過キザルヲ以テ之ヲ以テ慣習法ノ存在ヲ否認スルヲ得スト或ハ曰ク、私法上ニハ慣習法ノ存在ヲ認メ得ルモ公法上ニハ然ラスト然レトモ慣習法ヲ認ムルノ必要ハ人智ニ限リアリ、成文法ヲ以テ社會百般ノ事物ヲ網羅スルノ不能ナルニ基ク、既ニ公法私法共此ノ點ニ關シテ區別ナキ以上ハ二者ニ差ヲ附スルハ其ノ理由ニ乏シキモノナリ、故ニ吾人ハ慣習法カ憲法ノ淵源タリ得ヘキヲ認ム、我現行ノ規定ハ曰ク、公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依リテ認メタルモノ及法令ニ規定ナキ事項ニ關スルモノニ限リ法律ト同一ノ効力ヲ有ス

(法例2)

ト、即知ルヘシ、慣習法亦憲法ノ淵源タルコトヲ

唯慣習法カ憲法ノ淵源タリ得トスルモ單ニ成文ヲ以テ定メサル事項ニ限リ成文ヲ以テ定メタル事項ニ關シテハ適用ナキコトハ法例第二條ノ明ニ示ス所ナリ、是レ注意ヲ要スル所ナリトス

以上ノ外、憲法ノ淵源トシテ條約外國ノ憲法並ニ學說ヲ舉クルモノアリト雖、其ノ非ナルコトハ

多言ヲ須ヒスシテ明ナルヘシ

## 第三、憲法ノ解釋

憲法ノ解釋ニ付テモ一般法令ノ解釋ニ關スル原則ヲ適用ス敢テ異ナル所ナシ、唯憲法ニ就テ問題トナルハ憲法ノ最終最高解釋權カ孰レニ屬スルヤニ存スルナリ

外國ニ於テハ特ニ憲法解釋ニ關シ特別ノ規定ヲ置キ特別ノ機關ヲ設クルモノアリ然レニ我國ニ於テハ憲法ノ解釋ニ關シテ憲法中何等ノ規定ナキノミナラス何等特別ノ機關ヲ設クルコトナシ既ニ何等ノ規定ナク何等ノ機關ナキ以上ハ是カ最終最高ノ解釋權ハ憲法ノ制定者タル天皇ニ屬スルモノト解スヘシ且樞密院官制ニ於テ憲法ノ疑義ニ關シテハ之ヲ 密院ニ諮詢スヘキモノト定メタルニ依ルモ憲法ニ關スル最高ノ解釋權ヲ天皇ニ留保シタルモノナルコトヲ推定シ得加之實例トシテモ貴族院カ豫算ノ修正權ヲ有スルヤ否ヤニ付キ貴族院ト衆議院トノ間ニ見解ヲ異ニシ勅裁ニ依テ其ノ解釋ヲ確定シタルコトアルナリ

## 第四、憲法ノ改正

憲法ハ國體ヲ宣明シ政體ノ大綱ヲ制定スルノ法規ナリ故ニ國體ニ關スル規定ハ之ヲ改正シ得ヘキニアラス之カ改正ハ即革命ナレハナリ、政體ニ關スル規定モ亦容易ニ之ヲ改正スヘキニ非スト雖時勢ノ須要ニ應シ變更スルヲ以テ便宜トスルコトアリ、之レ憲法改正ニ關スル規定ノ存スル所以



ナリ、今憲法及皇室典範ノ改正ニ關シ、目ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

甲、憲法ノ改正<sup>(73)</sup><sub>(75)</sub>

イ、發案權

憲案改正ノ發案權ハ獨リ天皇ニ屬ス「勅命ヲ以テ」ト謂フモノ即之ニシテ一般法律改正ニ關スル發案權カ單ニ天皇ノミナラス帝國議會及兩議院ニモ屬スルト異ナル所ナリ

ロ、議決機關

憲法ノ改正ハ帝國議會ノ議ニ附スルコトヲ必要トス、是民意ヲ參照セムトスルカ爲メナリ

ハ、議事ノ定足數

議事ノ定足數トシテハ兩議院ハ各其ノ總員二分ノ二以上ノ出席ヲ必要トス、過半數ノ原則ニ依ラサルハ事ヲ慎重ニナサムカ爲メナリ

ニ、議決ノ定足數

議決ノ定足數トシテハ出席議員ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ必要トス之亦事ヲ慎重ニナサムカ爲メナリ

ホ、改正ノ時期

憲法ハ攝政ノ在任中ハ之ヲ改正スルコトヲ得ス、是レ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フト雖國家

及ヒ皇室ニ於ケル根本法則ノ至重ナルハ固ヨリ假攝ノ位置ノ上ニアルヲ以テ天皇ノ外何人ニモ改正ノ大事ヲ行フコト能ハサラシムルモノニシテ是亦一般法律カ其ノ改正ノ時期ニ關シテ何等ノ制限ナキモノト異ナル所ナリ

乙、皇室典範ノ改正<sup>(74)</sup><sub>(75)</sub>

皇室典範ノ改正ハ憲法ノ改正ト異ナリテ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス、是レ皇室典範ノ改正ヲ以テ帝國議會ノ于犯ノ外ニ置カムトスルニ在リ、同時ニ皇室典範ヲ以テ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス、蓋若シ之ヲ許サハ憲法ニ於テ特ニ其ノ改正ノ手續ヲ定メタルノ規定ハ無意味ニ歸スヘケレハナリ

最後ニ皇室典範モ亦憲法ト同シク攝政ノ在任中ハ之ヲ改正スルコトヲ得ス其ノ趣旨ハ憲法ニ於ケルト相同シコ、ニ又覆スルヲ須ヒサルナリ

第一編 統治權ノ總攬者

第一章 天皇

- 1 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 2 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 3 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ



我國ハ君主國體ナリ、天皇ハ統治權ノ總攬者ナリ

統治權ノ總攬者ノ何タルヤハ前既ニ之ヲ述ヘタリ、今再ヒ之ヲ言ヘハ統治權ノ總攬者トハ統治權ノ行用ヲ總フルモノナリ其者ノ事實上ニ於ケル意思カ法理上ニ於ケル國家ノ統治權ノ中心力トナリ基礎トナルモノヲ謂フ、即之ヲ事實上ノ方面ヨリ觀察スレハ天皇ハ國家團體ノ中心力ナリ、法理上ノ方面ヨリ觀察スレハ天皇即國家ナリ而シテ我大日本帝國ニ於テ天皇カ統治權ノ總攬者タルコトハ帝國肇造ノ時ニ定マレリ、古典天祖ノ勅ヲ擧ケテ曰ク豊葦原瑞穗國者吾子孫可レ王之地也皇孫就而治、寶祚之隆、當天壤無窮矣、爾來時ニ盛衰アリ世ニ治乱アリト雖皇統一系寶祚ノ隆ハ天地ト共ニ窮無ク、國民ノ確信万古動カス、憲法ハ此ノ既定ノ事實ヲ確認シ宣明セルノミ、憲法ニ依テ新ニ確定セラレタルノ義ヲ表スルニ非スシテ、固有ノ國體カ憲法ニ由テ益々鞏固ナルヲ示スノミ、而シテ第一條ハ主トシテ統治權ノ總攬者カ萬世一系ノ天皇ナルヘキノ大義ト統治權ノ所在トヲ規定シ、第四條ハ統治權ノ總攬行使ノ方面ヨリ規定セリ、兩者相俟テ天皇カ事實上國家團體ノ中心力トナリ法理上統治權ノ中心力タリ基礎タルノ大義ヲ宣明セルモノナリ

斯クノ如クニシテ天皇ハ統治權ノ總攬者ナリ而シテ天皇カ統治權ノ總攬者タルニ基キテ次ノ如キ結果ヲ生ス

一、天皇ノ有スル權力ハ天皇固有ノモノニシテ他ノ委任ニ因リテ之ヲ享有スルモノニ非ス其ノ國家以外ノモノヨリ承繼シタルニアラサルハ勿論國家ヨリ承繼シタルモノニアラス蓋國家先成立シテ統治權ヲ有シ之ヲ天皇ニ委任シタルモノニアラスシテ國家ト統治權及統治權ノ總攬者トハ其ノ存在ニ前後ナク天皇ノ統治權即國家ノ統治權ナレハナリ而シテ國家ノ統治權ノ固有ナルコトハ前既ニ述ヘタル如クナレハナリ

二、國家内ニ有スル總テノ統治的權力ハ悉ク天皇ニ集中シ天皇ニ其ノ源ヲ發ス、天皇ノ委任ニ因ラサル統治的權力若クハ天皇ヨリ出テサル統治的權力ハ國家内ニ存在スルコトナシ

三、統治權ノ本体カ天皇ニ属スルノミナラス統治權ノ作用ニ属スル立法權、司法權、憲法上ノ大權及ヒ行政權ハ皆天皇ニ属ス、此レ、憲法第一條第四條ノ外、其ノ他規定ノ直接間接ニ規定スル所ナリ、即チ立法權ニ關シテハ憲法第五條ニ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」ト規定シテ立法權カ議會ニ属セス又、君主ト議會トノ共同ニモアラスシテ君主ニ專屬スルモノナルコトヲ示シ、司法權ニ關シテハ憲法第五十七條ニ「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ裁判所之ヲ行フ」ト規定シテ、其ノ裁判所ニ属セス天皇ニ属スルコトヲ明ニシ、又憲法第十七條ニハ「攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ」ト規定シテ以テ大權ノ天皇ニ属スルモノナルコトヲ表ハセリ、又行政權ニ付テハ普徧西憲法第四十五條ノ如ク君主ニ專屬ストノ明文ナシト雖憲法第十條ニハ「天皇ハ行政各部ノ官制及ヒ文武官ノ俸給ヲ定メ及ヒ文武官ヲ任免ス」ト規定スルニヨリテ間接ニ行政權ノ天皇ニ



属スルコトヲ認メ得ヘシ

以上ハ統治權ノ總攬者トシテノ天皇ニ關ス、若夫自然人トシテノ天皇ハ普通ノ人民ト敢テ異ナル所無キニ似タリト雖自然人タル天皇ノ意思ハ即法理上國家ノ統治權タリ故ニ自然人タル天皇ノ尊嚴ヲ冒瀆スルハ延イテ統治權ノ總攬者ノ尊嚴ヲ毀損スルニ至リ、影響ノ及フ所甚大ナリ、是憲法ニ種々ナル特權ヲ具有セラル、モノトナセル所以ナリ、是等ノ特權ヲ分チテ四トナス

一、不可侵權

憲法第三條ハ規定シテ曰ク「天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス」トコ、ニ所謂天皇ノ意義ニ關シテハ爭アリ、或ハ曰ク統治權ノ總攬者トシテノ天皇ハ國家權力ノ源泉ナリ其ノ不可侵ナルハ明文ヲ俟テ知ルコトニアラス故ニ、コ、ニ天皇トハ自然人トシテノ天皇ノ謂ナリトス、然レトモ事明瞭ナルカ故ニ憲法ニ規定ヲ爲サスト謂フヲ得サルハ國體ニ關スル憲法ノ規定ニ見テ明ナリ、且憲法ニ於ケル天皇ナル語ハ反對ノ理由無キ限リ他ノ條文ノ字句ト同一ニ用ヒタルモノト解スヘキヲ至當トス、故ニ吾人ハ本條ハ統治權ノ總攬者トシテノ天皇及自然人トシテノ天皇ニ付キテノ規定ナリト信ス

コ、ニ神聖ト謂ヒ不可侵ト謂フノ語義如何ニ關シテハ爭アリ、然レトモ吾人ノ正當ト信スル所ニ

依レハ神聖トハ我國體ノ精華ト天皇ノ尊嚴ナル地位トニ對シテ形容的ニ用ヒタルモノニシテ法律上ノ意味ヲ有スルモノニアラス、又不可侵トハ尊嚴ヲ冒瀆スルカ如キ法律上ノ責任ヲ負ハシムルヲ得サルコトノ義ナリト信ス

二、榮譽權

イ、三種ノ神器ヲ承有スルノ權（皇室典範10）

ロ、宮廷ヲ組織スルノ權

ハ、守衛儀仗ノ權

ニ、敬稱ノ權

ホ、紋章ノ權

三、財産上ノ特權

イ、皇室經費ニ對スル權（憲法66 皇室典範48）

ロ、世傳御料ニ對スル權（皇室典範45、46 皇室財産令1：20）

四、皇室ニ首長タルノ權（皇室典範35 37 40 43 52、皇室組族令30 34 56 58 皇室等位令20 21、皇室典範増補1：4 皇族等位令第四章）

## 第二章 皇位繼承

2 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス



皇位繼承トハ統治權ノ總攬者タル地位ニ在ル自然人タル天皇ノ變更ヲ謂フ  
今之ハ説明スレハ次ノ如シ

一、皇位トハ統治權ノ總攬者トシテノ天皇ノ地位ヲ謂フ、皇位ヲ充タス者ハ自然人ナリ、自然人ハ死亡ヲ免レス然モ統治權ノ總攬者タルノ地位ハ國家ト前後ナク存在スルモノナリ「君主ハ死セス」トノ法律上ノ諺ハ此ノ意味ヲ表明セルモノナリ

二、皇位繼承ハ統治權ノ總攬者タル地位ニ在ル自然人タル天皇ノ變更ナリ

統治權ノ總攬者トシテノ地位ハ國家ト共ニ前後ナク存在スルモ、之ヲ充タス自然人ハ死亡ヲ免レス即天皇モ亦崩御セラル、ヲ免レス此ノ自然人ノ變更ヲ稱シテ皇位ノ繼承ト稱スルナリ  
皇位繼承ノ意義右ノ如シ、其ノ結果トシテ

一、皇位繼承ハ統治權ノ讓渡讓受ニアラス

皇位繼承ハ自然人タル天皇ノ變更ニシテ統治權ノ總攬者トシテノ天皇ノ變更ニアラス、統治權ノ總攬者ハ古今永遠ニ亘リテ一アリテ二アルコトナシ、憲法發布ノ上諭ニ「國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ」トアルハ自然人タル天皇ノ方面ヨリ立言シタルノミ統治權ノ總攬者タルノ地位ヨリ立言シタルニアラサルナリ

二、皇位繼承ハ家督相續ニアラス

家督相續ハ家督ノ讓渡讓受ノ觀念ニ基クモ皇位繼承ハ然ラス天皇崩御スルトキハ其ノ瞬間ニ於テ繼承ノ順位ニ當ル者カ皇位ニ即ク、從テ天皇トナル者カ前代天皇ノ死亡ノ事實ヲ知ルト否トヲ問ハス又皇位繼承ノ順序ニ當ル者ハ家督相續ノ場合ト異ナリテ其ノ繼承ヲ拒ムヲ得ス更ニ皇位繼承ハ家督相續ト異ナリテ自己ノ利益ノ爲メニ讓受クルノ考ヲ容ルルモノニアラス從テ繼承ノ順序ニ當ル者カ自己ノ知ラサル間ニ若クハ自己ノ同意ナクシテ繼承ノ順序ヲ變更セラル、モ既得權ヲ主張シテ不服ヲ訴フルコトヲ得サルナリ

皇位繼承ノ意義斯クノ如シ、今、之ニ關シ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

第一、踐祚及即位

天皇崩御スレハ正當ノ順序ニ在ル者皇位ヲ繼承ス之ヲ踐祚ト曰フ、而シテ踐祚ニ際シテハ祖宗ノ神器ヲ受ク(典10)

即位トハ皇位ノ繼承ヲ臣民ニ告示スルノ儀ヲ謂フ、即國法上ヨリ之ヲ見ルトキハ皇位繼承ハ其ノ原因發生ノ瞬間ニ効力ヲ發スルモノニシテ即位式ヲ行フト否ト、又即日ニ行フト歲月ヲ隔テ、行フトハ踐祚ノ効力ニ何等ノ關係ナシ、即位ノ禮及ヒ大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ(典11)

大嘗祭トハ天皇即位ノ後始メテ新穀ヲ以テ皇祖及ヒ天神地祇ヲ祭りタマフ祭事ニシテ一世一度ノ大典ナリ、大嘗ハ新嘗ト其義相同シキモ一世一度ノ新嘗タルヲ以テ特ニ其ノ名稱ヲ別テルナリ



猶踐祚ノ後、元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メザルコト明治元年ノ定制ニ從フ(典12)

### 第二、皇位繼承ノ資格要件

皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス(2)之ト皇室典範ノ規定トヲ併セ見ルトキハ皇位繼承ノ資格要件左ノ如シ

イ、皇統ニ屬スルコト(憲2典1)

皇統トハ祖宗ノ血統ナリ、直系ニ屬スルヲ要セサルモ血統ノ子孫タルコトヲ要ス(典58參照)

ロ、男系ノ男子タルコト(憲2典2)

男系ハ男子ニ依リテ傳ハルノ系統ナリ、男系ニシテ且男子ニアラサレハ皇位繼承ノ資格ナシ

ハ、皇族タルコト(典7)

皇族ニ限ルカ故ニ皇族ノ臣籍ニ入りタルモノハ皇族ニ復スルコトヲ得サルカ故ニ一旦臣籍ニ入りタルモノハ皇族繼承ノ資格ナシ(典増1:46)

ニ、身体上及ヒ精神上缺点アルカ爲メニ繼承ノ順序ヲ變更セラレタルモノニアラサルコト(典9)皇嗣精神若クハ身体ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及ヒ樞密顧問ニ諮詢シテ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得即身體又ハ精神ノ缺点ノ重大ナルト、其缺点ノ不治ナルトノ二條件ヲ具備スルキハ繼承ノ資格ヲ失フモノナリ從テ一時ノ過失或ハ疾病ヲ理由トシテ順序ヲ換フルコト

ヲ得サルナリ

### 第三(皇位繼承ノ順序)

皇室典範ニ定ムル皇位繼承ノ順序左ノ如シ

皇位ハ第一ニ皇長子之ヲ繼承シ(典2)皇長子在ラサルトキハ皇長孫之ヲ繼承シ、皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫之ヲ繼承ス、以下皆之ニ例ス(典3)

皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫之ヲ繼承シ(5)皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父其ノ子孫之ヲ繼承ス(典6)

皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族之ヲ繼承ス(典7)

而シテ皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニシ皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇子孫皆在ラサルトキニ限ル(典4)又皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス(典8)

即之ヲ概括スレハ

#### 一、皇統ノ前後

イ、直系ヲ先ニシ傍系ヲ後ニス、直系盡キタル後ニアラサレハ傍系ハ皇位ヲ繼承スルコトナシ

(直系主義)

ロ、嫡系ヲ先ニシ庶系ヲ後ニス(嫡系主義)



ハ、長系ヲ先ニシ次系ヲ後ニス（長系主義）

二、人ノ前後

イ、親等ノ近キ者ヲ先ニシ親等ノ遠キ者ヲ後ニス（近親主義）

ロ、嫡出ヲ先ニシ庶出ヲ後ニス（嫡出主義）

ハ、長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス（年長主義）

天皇崩スレハ以上ノ範圍内ニ於テ其ノ順序ニ當ル者カ直ニ踐祚ス、之カ順序ヲ變更スルヲ得ス唯皇室典範ニ一ノ例外アリ、

皇嗣精神者若ハ身体ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アル場合ニ於テ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得（典9）ト謂フモノ即之ナリ

第三章 攝政

17 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

攝政トハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ國家ノ機關ヲ謂フ（17）

夫レ國家ハ一日モ統治權ノ總攬者ナカルヘカラス然ルニ統治權ノ總攬者タルノ地位ヲ充タス者ハ自然人ナルカ故ニ種々ノ故障ノ爲メニ天皇自ラ統治權ヲ總攬スル能ハサル場合ナキニアラス之レ

攝政ナル制度ノ存スル所以ナリ

攝政ノ國法上ノ地位如何ニ關シテハ頗議論ノ存スル所ナリ或ハ曰ク攝政ハ事實上君主カ其ノ統治權ヲ總攬スル能ハサル場合ニ於テ内部ニ在リテ其ノ事實上ノ故障ヲ除クカ爲メニ設ケラレタルモノナリ君主ノ委任ニ基キテ攝政タルニアラス又君主ト攝政トノ間ニ代理代表等ノ法律關係ヲ生スルニモアラス外部ヨリ見ルトキハ君主モ攝政モ相合シテ統治權ノ總攬者ヲナスモノナリト

然レトモ此ノ説ニ依ルトキハ左ノ孰レカノ論結ヲ生セサルヲ得ス

一、攝政ハ事實上君主ノ能力ヲ補充スルニ過キサルコト

二、攝政ハ君主ト共ニ統治權ノ總攬者タルコト

若シ一ヲ以テ正當ナリトスレハ攝政モ視力ヲ補充スル眼鏡モ其ノ間ニ差ナク、國法上其ノ存在ヲ認ムヘキモノニアラサルニ限り憲法第十七條ト相抵觸ス、若シ二ヲ以テ正當ナリトスレハ二人ノ君主ヲ有スルコト、ナリテ君主國體ノ本質ト矛盾ス、孰レモ我國ニ於テハ採用スルヲ得サルナリ吾人ノ正當ト信スル所ニ依レハ攝政ハ稍民法上ノ代理人ニ類スル憲法上ノ制度ナリ、即、

一、攝政ハ大權ヲ行フモノナリ

コ、ニ大權トハ統治權ト言フト大ナル差異ナシ、唯、統治權ノ總攬者ハ天皇ニシテ、攝政ハ天皇



ノ名ニ於テ行フモノナルノミナラス、天皇ニ比シテ其ノ權限ノ範圍ニ於テ異ナル所アルヲ以テ特ニ其名稱ヲ異ニセルノミナリ

二、攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フモノナリ

天皇ノ名ニ於テ行フモノナルカ故ニ、攝政ノ行爲ハ憲法上ニ於テハ天皇ノ行爲トシテノ効力ヲ生ス、然レトモ單ニ事實上ニ於テ天皇ノ能力ヲ補充スルニ過キサルモノニハアラス、之レ前ニ述ヘタル所ナリ

三、攝政ハ國家ノ機關ナリ

攝政ノ天皇ノ名ニ於テ爲ス行爲ハ憲法上天皇ノ行爲ト同一ノ効力ヲ生ス、然モ攝政ハ統治權ノ總攬者ニハアラス、若シ攝政ヲ以テ統治權ノ總攬者ナリトスルトキハ、一國ニ二人ノ君主ノ存スルコト、ナリテ君主國體ノ本質ト相抵觸スレハナリ

攝政ノ性質右ノ如シ、今之ニ關シ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

第一、攝政ヲ置クヘキ場合 (17皇典、19)

攝政ヲ置クヘキ場合ニアリ

一、天皇未成年ナルトキ

二、天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキ

而シテ二ノ場合ニ於テハ皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議ヲ經ルコトヲ要スルナリ

第二、攝政ノ資格要件

攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル(17)今皇室典範ノ規定ニ從テ攝政ノ資格要件ヲ述フルコト次ノ如シ

一、皇族タルコト

皇族タルコトヲ要スルモ皇統ニ屬スルコトヲ必要トセス是レ皇位繼承ノ資格ト異ナル点ナリ

二、成年ニ達シタルコト

皇太子又ハ皇太孫ニ付キテハ疑ナシ(20)其ノ他ノ者ニ付キテハ明文ナキモ皇室典範第二十條第二十條及君主ノ未成年ノ場合ニ攝政ヲ置クノ必要ヨリヲ考ヘテ、攝政モ亦成年タルコトヲ要スルモノナリト信ス

三、女子ニシテ攝政ト爲ルトキハ配偶者ヲ有セサルモノナルコト(典23)

男女ヲ問ハサルハ皇位繼承ト異ナル所ナリ、唯女子ニシテ攝政ト爲ルトキハ配偶者ヲ有セサル者ニ限ル

四、精神上又ハ身体上重大ナル缺点ヲ有セサルコト(典25)

第三、攝政就任ノ順序



皇室典範ノ定ムル攝政就任順序左ノ如シ(典21 22)

- 一、親王及王
- 二、皇后
- 三、皇太后
- 四、太皇太后
- 五、内親王及女王

而シテ皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フモノトシ、女子ハ之ニ準スルモノトス  
以上ハ原則ナリ、此ノ原則ニ對シ皇室典範ハ一ノ例外ヲ規定セリ、即攝政又ハ攝政タルヘキ者精  
神若ハ身体ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換  
フルコトヲ得(典25)ト云フモノ即之ナリ

#### 第四 攝政ノ終了

攝政ノ終了ニ絶對的ノ終了ト相對的ノ終了トナリ

前者ハ攝政ノ絶對ニ不用トナレル場合ニシテ、一、天皇ノ崩御 二、未成年ノ天皇成年ニ達シタ  
ルトキ 三、天皇政ヲ親ラスルコト能ハサルノ絶對ノ故障ヲ除去セラレタルトキハ之ニ屬ス  
後者ハ攝政ノ更迭スル場合ニシテ 一、攝政ノ薨去 二、攝政タルノ資格要件ノ喪失 三、未成

年又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ攝政ニ任セラレサリシ皇太子又ハ皇太孫カ成年ニ達シ又ハ其ノ故障ノ  
事故カ除カレタルトキハ之ニ屬スルモノトス

### 第三編 統治權ノ客體

#### 第一章 領土

領土ハ一面ニ於テハ國家ノ成立要素ニシテ他ノ一面ニ於テハ國家統治權ノ客體即目的物ナリ

##### 一、領土ハ國家ノ成立要素ナリ

社會現象トシテ國家ヲ觀察スルトキハ國家トハ一定ノ土地ヲ基礎トシ固有ノ統治權ニ依リテ結合  
セラレタル人民ノ團體ナリ即土地ハ國家成立ノ物的要素ナリ、此点ニ關シテハ前既ニ説キタルヲ  
以テ今再之ヲ説カス

##### 二、領土ハ統治權ノ客體ナリ

法律上ノ方面ヨリ觀察スルトキハ國家ハ統治權ノ主体ナリ、領土ハ之ニ對シテ統治權ノ客體ナリ  
憲法第一條ハ此趣旨ヲ規定シテ曰ク「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト、コ、ニ帝國  
トハ全体ノ分離スヘカラサル一部ヲ特ニ全体ニ對セシメタルモノニシテ帝國ヲ以テ統治權ノ客體  
トナセルニアラス統治權ノ客體ハ領土及ヒ臣民ナリ、而シテ此ノ統治權ノ客體タル土地即チ統治  
關係ノ下ニ立ツ土地ヲ稱シテ領土ト謂フ



或ハ領土ハ統治權ノ客体ニアラスト唱アル論者アリ、蓋統治權ハ命令強制ノ權力ナリ命令強制ハ唯人民ニ對シテ行ハルコトヲ得ルノミニシテ物ニ對シテ行ハレ得ヘキモノニアラスト謂フヲ以テ其ノ理由トナス、然レトモ此ノ說ハ統治權ノ客体ヲ以テ統治權ノ相手方又ハ當事者ナリト誤解セルナリ統治關係ノ相手方又ハ當事者ハ人ニ限ルヘシト雖人ニ對シテ一定ノ土地ヲ專占セルコトヲ主張スル点ヨリ謂ヘハ領土ハ統治權ノ客体ナリト謂ハサルヘカラス恰モ私法上ノ所有權ハ人格者間ニ於テノミ存在スルモノニシテ所有權ノ當事者ハ常ニ人ニ限ルト雖所有權ノ客体ハ物ナルカ如キナリ加之此ノ說ニ依ルトキハ外國人カ何故ニ統治權ニ依リテ拘束セラレカヲ解釋スル能ハス統治權ト特別ノ關係ヲ有スル臣民カ統治權ニ服從スルハ明ナリト雖、斯カル關係ヲ有セザル外國人カ自國ノ領土内ニ入り來リタル場合ハ領土權ニ服從シ自國ノ領土ヲ出ツレハ統治權ニ服從セザルノ理由ハ領土ヲ以テ統治權ノ客体トナスカ爲メナリトノ理由ノ外ニ説明スル能ハサルナリ故ニ吾人ハ領土ハ統治權ノ客体ナリトナスモノナリ

今領土ニ關シテ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

#### 一、領土權

領土權トハ領土ニ對スル統治權ヲ謂フ或ハ領土高權又ハ領土最高權ト稱スル者アリ、然レトモ是レ領土最高權時代ノ思想ノ遺物ニシテ今日特ニ斯ノ如キ名稱ヲ用フルノ必要ナシ、或ハ領土權ヲ

以テ公法上ノ物權ナリト謂フ者アリ、然レトモ物權ハ私法上ノ觀念ナリ領土權ハ公法上ノ觀念ナリ二者ハ權利ノ本質ニ於テ根本的ニ相異ナル、唯其ノ外形ノ相類似スルカ爲メニ物權ナル名稱ヲ附スルハ甚シク其ノ當ヲ得サルモノナリ

領土權ノ領土ニ對スル效果ハ之ヲ左ノ二方面ニ分チテ觀察スルヲ以テ正當ナリトス

#### イ、積極的效果

領土權ノ積極的效果トハ領土内ニ存在スル人又ハ物ヲ總テ支配ノ下ニ置クコトヲ謂フ、其ノ個人ナルト團體ナルト人ナルト物件ナルトコトヲ問フコトナシ、外國人亦然リ、唯之カ例外ヲナスモノハ外國ノ君主、大統領外交使節、軍艦等國際法上ノ治外法權ヲ有スルモノナリトス

#### ロ、消極的效果

領土權ノ消極的效果トハ領土内ニ他ノ統治權ノ侵害シ來ルヲ排斥スルコトヲ謂フ、故ニ外國ノ法令ハ勿論司法權及ヒ行政權ハ領土内ニ於テハ活動スルコトヲ得サルナリ唯之カ例外ヲナスモノハ占領地、領事裁判權、保護國、國際地役、租借地等國際法上ノ關係ヨリ來ルモノナリトス

#### 二、領土ノ變更

領土變更ノ手續ニ關シテハ各國必シモ一ナラス、或ハ憲法ノ變更ヲ必要トシ或ハ法律ノ發布ヲ必



要トシ或ハ議會ノ協賛ヲ必要トス、然レトモ我國ニ於テハ領土ノ變更權ハ天皇ニ專屬ス蓋統治權ノ作用中憲法ニ一定ノ形式ヲ定メサルモノハ天皇ニ屬スト認ムヘキモノニシテ之レ憲法第一條第四條ノ規定ニ見ルモ將又第十三條ニ於テ宣戰媾和及條約ノ締結權ヲ天皇ニ屬セシメタルニ見ルモ明ナリ

### 三、領土ト憲法トノ關係

領土ト憲法トノ關係ハ單純ニシテ明白ナリ帝國憲法ハ其ノ施行區域ヲ限定スルノ規定ヲ有セス故ニ帝國ノ領土ニハ必ズ行ハレ領土以外ニハ當然行ハレサルモノトス之レ憲法第一條及第四條ヨリ生スル當然ノ結果ナリ、從テ憲法ヲ領土ノ一部ニ行ハス之ヲ領土ノ外ニ行ハントセハ特ニ其ノ言明アルコトヲ必要トス、何等特別ノ言明ナキトキハ領土内ニハ必ズ行ハレ領土外ニハ當然ニ行ハレサルモノト解スヘシ是レ特ニ憲法ニ付キテノミ謂フニ非サルナリ

## 第二章 臣 民

臣民ハ一面ニ於テハ國家ノ成立要素ニシテ他ノ一面ニ於テハ國家統治權ノ容即目的物ナリ

### 一、臣民ハ國家ノ成立要素ナリ

社會現象トシテ國家ヲ觀察スルトキハ國家トハ一定ノ土地ヲ基礎トシ固有ノ統治權ニ依リテ結合セラレタル人民ノ團體ナリ即臣民ハ國家成立ノ人的要素ナリ、此ノ点ニ關シテハ前既ニ説キタル

ヲ以テ今再之ヲ説カス

### 二、臣民ハ統治權ノ客体ナリ

法律上ノ方面ヨリ觀察スルトキハ國家ハ統治權ノ主体ナリ臣民ハ之ニ對シテ統治權ノ客体ナリ之レ憲法第一條ノ明ニ規定セル所ナルコトハ前既ニ之ヲ述ヘタリ

臣民ハ斯クノ如ク統治權ノ客体ナリ即統治關係ノ下ニ立ツ者ナリ、故ニ憲法所定ノ範圍内ニ於テ權利ヲ享有シ義務ヲ負擔スルモノナリ、コヽニ憲法所定ノ範圍内ニ於テト謂フハ絕對無限ニ相對ス、或ハ臣民ヲ以テ絕對無限ニ統治權ニ服從スルヲ以テ其ノ性格トナス者ナリトナス者アリ曰ク臣民ノ統治權ニ服從スルハ絕對ニシテ且無限ナリ其ノ本來ノ服從ハ合意ヲ條件トセス法令ヲ限度トセス何等特別名義ノ其間ニ介在スル者アルナク、直接ニシテ普遍ナリ、故ニ法理上之レヲ絕對ニシテ無限ナリト謂フト、固ヨリ國家ト臣民トノ事實上ノ關係ニ於テハ臣民ハ國家ニ對シテ絕對無限ニ服從ス、然レトモ法律上ノ關係ニ於テハ既ニ憲法ノ存スル以上之ヲ絕對無限ナリト謂フヘカラス憲法上ニ於テ臣民ノ權利ト謂ヒ義務ト謂フハ法規ノ制限内ニ於テ存在ス、絕對ノモノニアラサルナリ

今臣民ニ關シ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

### 第一、臣民タルノ要件



日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル(憲18)、日本臣民タルノ身分ヲ國籍ト謂フ、即日本臣民タルト外國人タルトハ日本ノ國籍ヲ有スルヤ否ヤニ在リ而シテ國籍即日本臣民タルノ要件ヲ定ムル法律ハ國籍法即之ナリ、(明治三二、法律第六六號)今國籍法ニ基キテ日本臣民タルノ要件ニ關シ分拆シテ説明スルコト次ノ如シ

一、國籍ノ取得

イ、出生(國1:4)

ロ、私生子ノ認知(國56)

ハ、婚姻、入夫婚姻及養子縁組(國1)

ニ、歸化(國5、791215(1))

ホ、國籍ノ回復(國25:27)

ヘ、國籍ノ選擇

二、國籍ノ喪失

イ、私生子ノ認知(國23)

コ、婚姻、離婚及離縁(國1819)

ハ、他國ノ國籍ノ取得(國10)

ニ、夫又ハ父母ノ他國ノ國籍取得(國2122)

第二、臣民ノ義務

臣民ハ其ノ本來ノ關係ニ於テハ統治權ニ對シテ絕對無限ニ服從スルノ義務ヲ負フ者ナリ法律上ノ關係ニ於テハ法規ノ制限内ニ於テ統治權ニ服從スルノ義務ヲ負フモノナリ、憲法ハ其中特ニ、兵役ノ義務及ヒ納税ノ義務ニ就テ規定セリ

イ、兵役ノ義務

日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス、兵役ノ義務ヲ命シ其ノ範圍ヲ定ムルニハ法律ヲ以テスルコトヲ要ス、現行ノ徵兵令カ勅令ナルハ憲法發布前ノ施行ニ依ルヲ以テナリ

ロ、納税ノ義務

日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納附ノ義務ヲ有ス

コ、ニ所謂納税トハ國税ノミニ關スルヤ將又國税以外ノ地方税ヲモ包含スルヤハ疑ノ存スル所ナリ、然レトモ廣ク納税トアル以上ハ總テヲ包含スルモノト解スヘシ(注意憲法62)

第三、臣民ノ權利

權利トハ意思ヲ以テ利益ヲ主張シ得ヘキ法律上ノ力ヲ謂フ、權利ヲ分チテ二種トナス一ハ公權ニシテ一ハ私權ナリ、公權ハ公法上ノ權利ナリ、私權ハ私法上ノ權利ナリ、然レトモ臣民ハ國家ニ



對シテ公權ヲ有スルヤ否ヤニ關シテハ爭ナキニアラス  
 或ハ曰ク、權利ハ同一統治權ニ服從スル對等者間ニ於テテノミ存在ス、國家ト之ニ服從スル臣民  
 トノ間ニ於テハ存在スベキモノニアラス、蓋國家ハ何時ニテモ自由ニ法規ヲ變更シ得レハナリト  
 然レトモ吾人ハ次ノ理由ノ下ニ此ノ說ヲ非ナリトス、國家ト臣民トノ本來ノ關係ニ於テハ臣民ハ  
 國家ニ絶對無限ニ服從スルモノナリト唯一旦法規ヲ制定シタルトキハ其ノ法規ノ存在スル限リハ  
 國家モ亦之ニ拘束セラル、之レ其ノ理由ノ一ナリ、既ニ法規ニ於テ臣民カ其ノ意思ヲ以テ利益ヲ  
 主張スルノ力ヲ認ムル以上ハ權利タルニ於テ差支ナシ、之レ其ノ理由ノ二ナリ、加之國家カ法規  
 ヲ自由ニ改廢スルノ權利ヲ有ストノ理由ヲ以テ公權ヲ否認セムトセハ私權モ之ヲ否認セサルヲ得  
 サルノ不合理ニ陷ルヘキハ其ノ理由ノ三ナリ、更ニ我カ憲法カ「臣民ノ權利義務」ナル語ヲ用フ  
 ルニ見ルモ、義務ノミヲ認メテ權利ヲ否認スルハ非ナリ、之レ其ノ理由ノ四ナリ  
 臣民ノ國家ニ對シテ有スル公權ハ、參政權、自由權及行爲要求權ノ三ニ分ツヲ通常トス然レトモ所  
 謂參政權ハ權利ニアラス蓋參政權中選舉權ノ内容ハ投票ヲ行フコトニシテ投票ハ公ノ職務ナリ權  
 利ノ性質ヲ有スルモノニアラス、官吏トナルコト及兵役ニ就クコトモ亦同シク權利ノ性質ヲ有ス  
 ルモノニアラサレハナリ  
 自由權ノ權利ナリヤ否ヤニ關シテハ爭アリ、或ハ之ヲ否認スルモムナリ、蓋臣民ハ絶對無限ニ統

治權ニ服スル者ナリトノ說ニ基クモノナリト雖之誤レリ、權利ハ意思ヲ以テ利益ヲ主張シ得ヘキ  
 法律上ノ力ナリ、臣民ノ自由ハ特定ノ形式ニ依ルニアラサレハ之ヲ侵害スルヲ得スト謂フハ之ヲ  
 臣民ノ側ヨリ見レハ一ノ利益ヲ保有スルコトヲ國家ニ對シテ主張スル意思ノ力ナレハナリ  
 行爲要求權ノ權利ナルコトニ就キテハ何等疑ヲ容ル、ノ余地ヲ存セサルナリ  
 今臣民ノ公權中我憲法ニ保障セラレタルモノニ關シテ説明スヘシ

一、均シク公務ニ就クノ權 (19)

日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均シク文武官ニ任セラレ及ヒ其他ノ公務ニ就クコト  
 ヲ得(國籍法16、貴族院令3参照)

二、居住及移轉ノ自由 (22)

日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス、故ニ臣民ノ居住及ヒ移轉ノ自由ヲ制限  
 セムトスルトキハ必ス法律ニ依ラサルヘカラサルナリ而シテ其ノ制限ノ方法カ直接ナルト、間接  
 ナルト將又制限ノ目的カ直接ニ居住移轉ノ目的ヲ制限スルニ在ルト警察ノ目的ニ出ツルトハ之ヲ  
 間フコトナシ

三、身体ノ自由 (23)

日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕、監禁、審問、處罰ヲ受クルコトナシ、コ、ニ所謂處罰ノ



範圍如何ニ關シテハ爭アリ、然レトモ吾人ハ刑罰警察罰ヲ指シ懲戒罰及ヒ行政執行罰(強制罰)ハ包含モサルモノナリト解ス

四、裁判ノ自由 (24)

日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ、コ、ニ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權トハ法律ニ定メタル裁判官以外ノ者ニ依リテ不服ノ申立ノ許サレサル最終ノ確定力ヲ有スル裁判ヲ受クルコトヲ拒絕シ得ルノ意ナリ、故ニ法定ノ裁判官ニアラサル者ニ於テ裁判ヲ爲スモ之ニ不服ナル場合ニ於テ法定ノ裁判官ノ裁判ヲ受クルノ途ヲ與フルトキハ憲法第二十四條ニ抵觸スルモノニアラサルナリ

五、住所ノ安全 (25)

日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシ、之レ住所ノ安全ヲ絶對ニ保障スルモノナルカ故ニ如何ナル目的ニ出ツルヲ問ハス住所ノ安全ヲ害セムトスルニハ法律ノ規定ニ基カサルヲ得サルナリ

六、信書ノ秋密 (26)

日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ、コ、ニ所謂信書ノ秘密ノ範圍如何ニ關シテハ爭アリ然レトモ吾人ノ正當ト信スル所ニ依レハ憲法ノ趣旨ハ國家ノ機關カ

信書ニ付キ知ルヘカラサル範圍ニシテ信書其者ニ依リテ知り得ヘキ事項ノ中發信者ニ於テ秘密ニスルノ意思ヲ有スルモノト認メラル、事項ヲ知ルコトヲ禁スルニ在リト信ス

七、所有權ノ不可侵 (27)

日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、コトナシ公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル故ニ處分ヲ以テ所有權ヲ侵ス場合ニハ必ス法律ノ規定ヲ要スルノミナラス其處分ハ公益ノ爲メニ必要ナルコトヲ條件トシ、公益ノ爲メニ必要ナル場合ニアラサレハ法律ノ規定ヲ以テスルモ絶對ニ處分ヲ以テ所有權ヲ侵スコトヲ得サルナリ

八、信教ノ自由 (28)

日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限リニ於テ信教ノ自由ヲ有ス、コ、ニ信教ノ自由トハ宗教撰擇、改宗、無宗教、積極的禮拜及消極的禮拜ノ五ノ自由ヲ包含ス、猶注意スヘキハ信教ノ自由ハ他ノ自由權ニ比シ次ノ二個ノ点ニ於テ相異ナル、法律ノミナラス命令ヲ以テモ制限シ得ルコト及ヒ法律ヲ以テスルモ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限リハ制限シ得サルコト是ナリ

八、言論、著作、印行、集會及結社ノ自由 (29)

日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論、著作、印行集會結社ノ自由ヲ有ス



九、請願ノ自由 (30)

日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得、コ、ニ請願ノ中ニハ訴願ヲ包含スルモノニアラス、而シテ臣民ノ請願ニ關シテハ請願令ニ於テ之ヲ規定セリ

以上ハ憲法第二章ニ規定セラレタル臣民ノ權利ナリ然ルニ之ニ對シテ次ノ二個ノ例外アリ

一、戰時又ハ國家事變ノ場合 (30)

憲法第二章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナキナリ

二、陸海軍ノ軍人 (32)

憲法第二章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍人ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

第四編 統治權ノ機關

第一章 帝國議會

第一節 帝國議會ノ意義

帝國議會ハ立法權ノ行使ニ參與スル憲法上ノ機關ナリ今此ノ定義ヲ分拆シテ説明スルコト次ノ如シ

イ、帝國議會ハ統治ノ機關ナリ

即帝國議會ハ統治權ノ總攬者カ其ノ統治權ヲ行使スルニ付キテノ機關ナリ故ニ我帝國議會ハ彼民主國體ニ於ケル帝國議會トハ其ノ性質ヲ異ニスルナリ

ロ、帝國議會ハ憲法上ノ機關ナリ

即帝國議會ハ憲法ニ依リテ設ケラレタル機關ナリ、此ノ点ニ於テ國務大臣裁判所等ト相同シクシテ憲法以下ノ法律勅令ニ依リテ設ケラレタル機關トハ異ナル

ハ、帝國議會ハ統治權ノ行使ニ參與スルノ機關ナリ

帝國議會ハ統治權ノ行使ニ參與ス就中統治權ノ作用中立法權ノ行使ニ主トシテ參與スルモノナリ

帝國議會ノ意義以上ノ如シ、其ノ結果トシテ次ノ如キ性質ヲ有ス

イ、帝國議會ハ外部ニ對シテ命令權ヲ行フコトヲ得ス

議會ノ權限ハ内部的ニ統治權ノ行使ニ參與スルニ在リ直接外部ニ對シテ効力ヲ有スルノ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得ス (議院法72 73 75)

ロ、帝國議會ノ權限ハ限定的ナリ



帝國議會ハ憲法上ノ機關ナリ、天皇カ統治權ノ總攬者タルノ地位ハ憲法施行ノ爲メニ變更セラレ、コトナキカ故ニ憲法カ特ニ統治權ノ行使ニ制限ヲ爲サル以上ハ廣ク天皇ノ行動ノ範圍ニ屬スルモノト認ムヘク、之ニ反シテ帝國議會ハ憲法及法律ニ於テ與ヘラレタル權限事項ノ外ハ其ノ他ノ國務ニ參與スルコトヲ得サルナリ

ハ、帝國議會ハ人格ヲ有セス

帝國議會ハ機關ナリ、故ニ人格ヲ有スルモノニアラス、從テ特別ノ明文ナキ以上自ラ權利義務ノ主体トナルコトヲ得サルナリ（明治二二、法律二八號參照）

今帝國議會ニ關シテ分チテ説明スルコト次ノ如シ

第一、帝國議會ノ組織

帝國議會ハ貴族院、衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

(33)

兩院合シテ帝國議會ヲ成ス、故ニ帝國議會ノ職權ハ各議院ノ職權ニアラス、帝國議會ノ職權ハ各議院獨立シテ之ヲ行フコトヲ得ス又兩院同時ニ成立スルニ非サレハ帝國議會ヲ成サス、議院ハ帝國議會ノ一部ニシテ獨立シテ統治ノ機關タルニアラサルナリ

一、貴族院ノ組織

貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス(34)今貴族院令ノ

定ムル所ニ基キテ其ノ組織ヲ説明スヘシ

イ、皇族（貴1：2）

皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ貴族院議員ニ列スルコトヲ得

ロ、公、候爵（貴1：3）

公、候爵ヲ有スル者ハ滿二十五歳ニ達シタルトキハ貴族院議員タリ

ハ、伯、子、男爵（貴1：4）

伯、子、男爵ヲ有スルモノニシテ滿二十五歳ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七個年ノ任期ヲ以テ貴族院議員タリ

ニ、終身議員（1、5）

國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身貴族院議員タリ

ホ、多額納稅議員（貴1：6）

各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七ヶ年ノ任期ヲ以テ貴族院議員タリ  
コ、ニ一言注意スヘキハ國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルヲ得サルコト是ナリ（貴7）



二、衆議院ノ組織

衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス(35)今衆議院議員選舉法ノ定ムルニ依リ所テ其ノ組織ヲ説明スルコト次ノ如シ(衆1:7)

イ、選舉ニ關スル區域(衆1:7) 選舉ニ關スル區域ニハ選舉區、投票區、開票區ノ三アリ我現行法ハ選舉區ニ關シテハ大選舉區制度ヲ採リ、投票區ハ市町村ノ區域ニ依リ、開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル

ロ、選舉權及被選舉權(衆8:17)

選舉權ニ關シテハ普通選舉及制限選舉ノ二種アリ、我現行法ハ制限選舉ノ主義ヲ採リ、國籍、男女、年齡、住所、禁治產者、準禁治產者、身代限、家資分散、破產者、剝奪公權者及停止公權者等ノ外財產ニ關スル制限選舉ノ主義ヲ採ル、被選舉權ニ關シテハカ、ル制限ヲ有セサルナリ

ハ、選舉人名簿(衆18:27)

選舉人名簿ニ關シテハ我現行法ハ單獨人名簿ノ主義、繼續的人名簿ノ主義ヲ採リテ合併人名簿ノ主義及繼續的人名簿ノ主義ヲ採ラス

ニ、選舉投票及投票所(衆28:46)

我現行法ハ直接選舉、同等投票權、單記投票、無記名投票、投票自由ノ主義ヲ採用シ、間接選舉復數投票權、連記投票、記名投票、強制投票ノ制度ヲ採ラス

ホ、投票所取締(47:50)

ヘ、開票及開票所(51:95)

ト、選舉會(64:69)

チ、當選人(70:76)

リ、議員ノ任期及補闕選舉(77:79)

ス、選舉訴訟、及當選訴訟(80:85)

ル、罰則(86:163)

ヲ、補則(184:110)

ワ、附則(111:112)

第二、帝國議會ノ召集、開會、閉會、停會及解散  
イ、召集

帝國議會ノ召集ハ天皇憲法上ノ大權ニ屬ス。(7)帝國議會ノ召集トハ帝國議會ヲ組織スル各議員ニ集會ヲ命スルコトヲ謂フ帝國議會ノ召集ニ二種アリ通常會及臨時會即之ナリ



通常會ハ毎年之ヲ召集ス(41)其ノ會期ハ三箇月トシ必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長ス(42)會期トハ帝國議會ノ開會ヨリ閉會ニ至ル迄ノ期間ヲ謂フ臨時會ハ臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ之ヲ召集ス、其ノ會期ハ勅命ノ定ムル所ナリ(43)

ロ、開會、閉會、會期ノ延長及停會  
帝國議會ノ開會、閉會、停會及衆議院ノ解散ハ天皇憲法上ノ大權ニ屬ス(7)帝國議會ノ開會トハ議會ノ成立ニシテ其ノ憲法上本來ノ權能ヲ開始スルコトヲ謂ヒ、閉會トハ會期ノ終了ニヨリテ議會ノ成立ヲ失ハシムルコトヲ謂ヒ、停會トハ議會ノ成立ヲ失ハシメスシテ一時其行動ヲ中止スルコトヲ謂フ、帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フ、而シテ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラル、ナリ(44)

ハ、解散  
衆議院ノ解散ハ天皇憲法上ノ大權ニ屬ス(7)解散トハ衆議院ヲシテ其ノ成立ヲ消滅セシムルコトヲ謂フ、衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集ス(45)

第三、帝國議會ノ權限

天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ(3)帝國議會ハ立法權ノ行使ニ參與スル憲法上ノ機關

ナリ、其ノ權限ニ實質的權限ト形式的權限トノ二アリ、前者ハ議會ノ本來ノ權限ニシテ後者ハ其ノ補助的權限ナリ、今之ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

一、實質的權限

イ、法律案ノ協贊(37)

凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス、協贊トハ内ニ在リテ協贊參贊ノ任ニ該ルコトヲ謂フ外部ニ對シテ命令シ強制スルノ謂ニアラス

ロ、豫算案ノ協贊(44)

ハ、國債ヲ起シ又ハ豫算外國庫ノ負担トナルヘキ契約ヲ爲スコトニ對スル協贊(62)

ニ、緊急勅令ノ承諾(8)

ホ、豫算超過支出又ハ豫算外支出ノ承諾(64)

ヘ、緊急財政處分ノ承諾(70)

ト、憲法改正ノ議決(73)

チ、決算ノ審査(72)

二、形式的權限

イ、法律案ノ議決及提出(38)



帝國議會ノ兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得而シテ兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得サルナリ (39)

ロ、建議 (40)

建議トハ議院カ一定ノ事件ニ就キ其ノ意見ヲ政府ニ建白スルコトヲ謂フ、兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得、但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

ハ、上奏 (49)

上奏トハ君主ニ對シテ議院ノ意思ヲ發表スルコトヲ謂フ兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得 (49)

ニ、請願書ノ受理 (50)

兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

ホ、院内規則ノ制定 (51)

兩議院ハ憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得此ノ他議院法ニ種々ノ權限ヲ規定スレトモ今一々之ヲ述ヘス

第四、帝國議會ノ議事

帝國議會ノ議事ニ關シテ憲法ハ左ノ四個ノ事項ヲ規定スルノミ、他ハ議院法ニ讓レルナリ

イ、議事定足數 (46)

兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ一以上出席スルニ非ラサレハ議事ヲ開キ議決スルコトヲ得ス

ロ、議決ノ定足數 (47)

兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

ハ、會議ノ公開 (47)

兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

ニ、國務大臣及政府委員ノ出席 (54)

國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第五、帝國議會ノ議員

帝國議會ノ議員ニ關シテモ憲法ハ左ノ事項ヲ規定スルノミ詳細ハ議院法ノ定ムル所ナリ

イ、議員ノ資格 (36)

何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

ロ、意見及表決ノ自由 (52)

兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘ



ハ、身体ノ自由 (53)

両議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關スル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラ  
ル、コトナキナリ

## 第二章 國務大臣

55 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

國務大臣ハ天皇ノ大權行使ニ參與スル憲法上ノ機關ナリ更ニ一層詳言スレハ天皇ヲ輔弼シテ其ノ  
責ニ任シ法律勅令其他國務ニ關スル詔勅ニ副署スル國家ノ機關ナリ (55)

今此ノ定義ニ基キテ國務大臣ニ關シ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ、  
第一、國務大臣ノ權限

國務大臣ノ權限ハ天皇ヲ輔弼シ及ヒ國務ニ關スル詔勅ニ副署スルニ在リ、副署ニ付キテハ後ニ述  
ブ今ハ輔弼ニ關シテノミ説明スヘシ

輔弼トハ天皇大權ノ行使ニ關シテ意見ヲ上リ其ノ採擇ヲ乞フコトヲ謂フ、換言スレハ意見ヲ開陳  
シ天皇ノ國務上ノ行爲ヲ適當ノ行爲ト爲スニ勉ムルヲ謂フ而シテ國務大臣ハ御下問アル場合ハ勿

論之ナキ場合ト雖天皇大權ノ行使ニ付テハ進ンテ意見ヲ陳述シ之カ採擇ヲ乞ハサルヘカラス然レ  
トモ之ヲ採納スルト否トハ全ク君主ノ自由ニ屬シ大臣ハ私見ヲ主持シ大權ヲ阻絶スルヲ得サルナリ  
斯クノ如ク天皇ハ國務大臣ノ輔弼ニ依リテ大權ヲ行使セザルヘカラス然レトモ大權ノ行使ハ天皇  
ノ自由ニ屬ス即チ天皇ハ大臣ノ意見ヲ聽カスシテ大權ヲ行使スルヲ得スト雖大臣ノ意見ニ拘束セ  
ラル、コトナク大臣ノ意見ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ排斥シテ之ト異ナリタル自己ノ所信ヲ行フ  
コトヲ得ヘシ、之レ大臣ノ輔弼カ議會ノ協贊ト異ナル所ナリ、天皇ハ議會ノ協贊セル所ヲ不當ト  
認ムルトキハ之ヲ裁可セサルノ自由ヲ有スト雖議會ノ協贊アルニアラサレハ全ク法律ヲ制定スル  
コト能ハサルナリ

次ニ國務大臣ハ各省大臣ト異ナル、(内閣官制10)國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ天皇ノ國務上ノ行爲ニ  
副署スルノ機關ナルニ反シ、各省大臣ハ天皇ニ隸屬シ行政ノ一部ヲ擔任スル最高ノ行政官廳ナル  
カ故ニ閣令省令ヲ發シ各種ノ處分ヲ爲スカ如ク外部ニ對シ、統治事務ヲ行フハ各省大臣トシテ之  
ヲ行フモノニシテ國務大臣トシテ之ヲ爲スモノニアラス國務大臣トシテハ外部ニ對シ統治事務ヲ  
行フコトヲ得サルナリ同一人カ國務大臣タルト同時ニ各省大臣タル場合ト雖此ノ二ノ地位ハ嚴ニ  
之ヲ區別セサルヘカラス國務大臣ハ憲法ノ研究範圍ニ屬シ各省大臣ハ行政法ノ研究範圍ニ屬スル  
ナリ



國務大臣ハ天皇ヲ輔弼ス、故ニ國務大臣ハ合議体ヲナシテ天皇ヲ輔弼スルニアラス單獨ニ天皇ヲ輔弼スルモノナリ固ヨリ各大臣相會シテ輔弼ニ付キテ意見ヲ交換スルハ妨ナク又實際ニ行ハル所ナリ、然レトモ輔弼ハ常ニ各大臣獨立シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ内閣ヲ以テ團結ノ一体トシ多數決ヲ以テ輔弼シ衆ヲ以テ寡ヲ壓シ各獨立ノ意見ヲ奉ルコトヲ得サラシムルカ如キハ我憲法ノ許ス所ニアラサルナリ此ノ如ク國務大臣トシテハ各大臣單獨ニ天皇ニ對シテ輔弼ノ任ヲ盡スヘキモノナルカ故ニ總理大臣モ各省大臣モ國務大臣トシテハ此ノ間ニ何等ノ相違アラサルナリ

第二、國務大臣ノ副署

凡テ法律勅令其他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス (55.II) 副署トハ君主ノ命令處分ニ署名スルコトヲ謂フ、其ノ性質ニ付キテハ種々ノ學說アリ

或ハ曰ク、副署ハ君主ノ行爲カ國務大臣ノ輔弼ニ依リテ行ハレタルコトヲ公証スルモノナリト然レトモ輔弼ト副署トハ必シモ同一ノ國務大臣ニ伴フモノニアラサルヲ以テ吾人ハ此ノ說ヲ採ラス、此ノ說ニ類似シテ副署ハ國務大臣カ君主ノ行爲ニ同意シタルコトヲ公証スルモノナリト爲ス者アリ、然レトモ大臣ノ副署アル行爲モ君主單獨ノ行爲ニシテ君主カ大臣ト共同シテ即チ大臣ノ同意ヲ得テ國政ヲ行フモノト爲スハ君主國體ノ下ニ於テハ容ルヘカラサル所ナリ故ニ吾人ハ此ノ說ヲ採ラス

或ハ曰ク、副署ハ國務大臣ニ於テ君主ノ行爲カ違憲違法ナラサルコトヲ保證スルモノナリト、然レトモ此ノ說ニ依ルトキハ國務大臣ハ君主ノ行爲ヲ判斷シ自己ノ解釋ヲ以テ君主ノ行爲ヲ違憲違法ナリト爲シ得ルモノニシテ大臣ハ憲法法律ニ關シ君主ヨリモ優レル解釋權ヲ有スルニ至ルノ不合理的アルノミナラス國務大臣ハ君主ノ行爲カ違憲違法ナリト思惟スルトキハ副署ヲ拒絕スルニ至ル故ニ吾人ハ此ノ說ヲ採ラス

或ハ曰ク、副署ハ國務大臣カ之ニ依テ君主ノ行爲ニ付キ負擔スルカ爲メナリト、然レトモ國務大臣ノ責任ハ憲法第五十五條ノ明文ノ示スカ如ク輔弼ニ因リテ生スルモノニシテ副署ニ因リテ生スルモノニアラス故ニ吾人ハ此ノ說ヲ採ラス

吾人ノ正當ト信スル所ニ依レハ副署ハ君主ノ行爲カ君主ノ真正ナル行爲ナルコトヲ保證スルニ在リト信ス、更ニ一層進ンテ之ヲ言ヘハ副署ハ君主ノ君主トシテノ行爲ナルコトヲ保證スルニ在リト信ス、蓋立憲政体ノ特質ハ統治權ノ作用ニ一定ノ形式ヲ定ムルコトニ在リ、從テ統治權ノ總攬者トシテノ君主ノ行爲ハ之ヲ自然人タル君主ノ行爲ニ區別シ、特定ノ形式ヲ以テ之ヲ示スノ必要アリ、而シテ副署ハ此ノ趣旨ニ副フカ爲メニ爲サル、モノニ外ナラサレハナリ

斯ノ如ク副署ハ君主ノ行爲タルコトヲ保證スルモノニシテ憲法第五十五條第二項ハ「凡テ法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス」ト規定セルカ故ニ國務大臣ノ副署ハ國務ニ關ル



法令詔勅ノ有効ナルニ必要ナル條件ナリ若シ國務ニ關ル法令詔勅ニ國務大臣ノ副署ナキトキハ其ノ法令詔勅ハ國法上何等ノ効力ヲ有セサルモノナリ。假令他ノ方法ニヨリ君主ノ意思ヨリ出テタルコトヲ證明シ得ル場合ト雖モ亦同シ蓋シ憲法ノ定メタル要件ヲ具備セサル法令詔勅ニ國法上ノ効力ヲ認メサルハ立憲制度ノ原則ナレハナリ、然レトモ憲法ハ單ニ國務ニ關ル法令詔勅ニハ國務大臣ノ副署ヲ要スルコトヲ規定セルニ過キサルカ故ニ憲法上國務ニ關ル法令詔勅ノ有効ナルニ必要ナル條件ハ一人若ハ二人ノ國務大臣ノ副署ヲ以テ充タスコトヲ得ヘク必シモ總テノ國務大臣ノ副署ヲ要スルモノニアラサルナリ

副署ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ルヤ否ヤ是レ一ノ疑問ニ屬スト雖副署ハ君主ノ君主トシテノ行爲ナルコトヲ保證スルモノナリ故ニ君主トシテノ行爲ニ對シテハ之ヲ拒絕スルコトヲ得スト解スルヲ以テ正當ナリト信ス或ハ曰ク國務大臣ハ憲法又ハ法律ニ違反シ又ハ國家ノ利益ヲ阻害スル君主ノ行爲ハ眞ノ君主ノ行爲トシテ認ムルヲ得ス故ニ大臣ノ輔弼ヲ無意味ナルモノトナサザルカ爲メニハ君主ノ斯ル行爲ニ對シテハ副署ヲ拒絕スルノ權利ト義務トヲ有スルモノト爲サザルヘカラスト然レトモ憲法及法律ノ最高ノ解釋權並ニ公益ノ最高ノ認定權ハ君主ニ屬スルノミナラス國務大臣カ君主ノ命ニ反シテ副署ヲ拒絕スルコトヲ得ルモノトセハ結局君主ハ大臣ノ同意ヲ得サレハ何事ヲモ爲シ能ハサルニ至リ君主ノ實權ハ國務大臣ニ移ル。故ニ吾人ハ此ノ說ヲ採ラス

### 第三、國務大臣ノ責任

國務大臣ノ責任ハ頗議論ノ存スル所ナリ。今日ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ  
イ、責任ノ性質

國務大臣ノ責任ハ道德上ノ責任ニアラス、蓋道德上ノ責任ハ法律ノ于與スル所ニアラサレハナリ又政治上ノ責任ニアラス、政治上ノ責任ハ憲法ニ規定スヘキ限ニアラサレハナリ、又刑事上ノ責任ニアラス、國務大臣ノ憲法上ノ責任ト犯罪行爲ニ對スル責任トノ異ナルハ我法制ノ下ニ於テハ議論ノ余地ヲ存スルモノニアラス

吾人ノ正當ト信スル所ニ依レハ國務大臣ノ責任ハ職務上ノ責任ニシテ即懲戒上ノ責任ナリ蓋大臣ヲシテ責任ヲ負ハシムルハ畢竟其ノ職務ヲ完フセシメムカ爲メニシテ官吏ヲシテ其ノ職務ヲ完フシ以テ官紀ヲ維持スルハ懲戒處分ノ目的ナレハナリ

### ロ、責任ノ相手方

國務大臣ノ責任ハ何人ニ對シテ負フモノナルカ大臣ノ責任ハ上述スルカ如ク懲戒上ノ責任ナルカ故ニ此ノ責任ヲ質スモノハ特別ノ規定ノ存セサル以上ハ君主國ニ於テハ君主ナルコト勿論ナリ而シテ我國ニ於テハ特別ノ規定ヲ以テ大臣ノ責任ヲ問フヘキコトヲ規定セサルカ故ニ大臣カ君主ニ對シテ責任スヘキモノナルコトハ一点ノ疑ヲ容レサル所ナリ然ルニ此ノ明瞭ナル事理ニ對シテ



反對說ヲ唱へ大臣ノ責任ハ議會ニ對スルモノナリト謂フカ如キハ我國體ト及帝國憲法ノ明文ヲ無視セルモノト謂フヘキナリ

ハ、責任ノ根據

國務大臣ノ負ヒル責任ノ根據如何

イ、大臣權說

此ノ說ハ立法權司法權ニ對シテ大臣權ヲ認メ總テノ行政權ハ之ヲ大臣ニ屬セシメ君主ハ單ニ中立的且消極的ノ權力ヲ有スルニ止マリ國家ヲ統御スルトモ施政セス政治ヲ爲スハ大臣ナリ故ニ責ヲ負フハ大臣ナリトナス然レトモ斯ノ如キハ君主ノ統治權ノ總攬者タルコトヲ實質無キ虛名タラシムルモノニシテ我國體ト相容レヌ

ロ、代責任說

此ノ說ハ君主ハ不可侵ニシテ其責ニ任セシムルヲ得ス故ニ大臣ヲシテ君主ニ代リテ責ニ任セシムトナス者ナリ、然レトモ責任ハ自己ノ行爲ニ對シテ負フヘキモノナリ、他人ノ行爲ニ對シテ負フヘキモノニアラサルヲ以テ此ノ說ハ責任ノ原則ト牴觸ス

ハ、不能爲惡說

此ノ說ハ君主ハ不正ナルコトヲ欲セズ又爲ス能ハス故ニ違憲違法ノ行爲ハ大臣ノ輔弼宜シキヲ得

サルカ爲メナルヲ以テ大臣ニ於テ責ニ任スヘシトナス、然レトモ此ノ說ハ結局君主ハ大臣ニ依リテ左右セラル、コトヲ認ムルモノニシテ結局第一說ト同シク君主カ統治權ノ總攬者タルノ性質ト相反ス

二、君主大臣共同行爲說

此ノ說ハ立憲國ニ於テハ君主ノ國務上ノ行爲ハ國務大臣ノ參與アルニ非レハ其ノ効力ヲ生セサルヲ以テ君主ノ命令ト雖法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ同意ヲ拒ムノ義務ヲ有ス故ニ違法反公益ノ行爲ニ同意シタルトキハ其同意シタルコトニ對シテ責ヲ任フモノナリトナス然レトモ此ノ說ハ國務大臣ハ副署ヲ拒絕シ得ルモノトナシ、大臣ノ副署ハ君主ニ同意ヲ表スルモノニシテ君主ノ命令ハ君主單獨ノ命令ニアラス君主ト國務大臣トノ共同命令ナリトナスモノニシテ君主カ統治權ノ總攬者タルノ性質ニ相反ス

ホ、審査義務說

此ノ說ハ國務大臣ハ君主ノ行爲ニ副署スルニ當リ違憲違法ナラサルヤ否ヤヲ審査スルノ義務ヲ有ス、故ニ違憲違法ノ命令ニ副署シタルハ眞ノ君主ノ意思ニアラサルモノヲ君主ノ意思トシテ成立セシメタルカ故ニ其ノ点ニ付キ責ニ任スルナリト然レトモ此ノ說ハ君主カ憲法法律ニツキ大臣ヨリ優リタル解釋權ヲ有スルコトヲ忘レタルノミナラス此ノ說ニ從フトキハ大臣ハ副署サヘ爲サ、



ルトキハ輔弼機關トシテ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠ルモ憲法上何等ノ責任ヲ負ハサルノ不當ナル結果ヲ生スルナリ

吾人ノ正當ト信スル所ニ依レハ國務大臣ハ君主ヲ輔弼スルノ任務ヲ有ス、輔弼トハ君主ニ對シ意見ヲ奉リ之カ採納ヲ乞フコトナルニ依リ大臣ハ意見ヲ奉ルヘクシテ進言セス又意見ヲ奉ルモ宜シキヲ得サルトキハ之ニ對シテ責ヲ負フモノナリ換言スレハ大臣ハ輔弼上ノ過失ニ對シテ其ノ責任スルナリ

最後ニ一言スヘキハ副署ト責任トノ關係ナリ、國務大臣ノ副署ト其ノ憲法上ノ責任トハ無關係ナリ、蓋シ國務大臣ノ責任ハ輔弼行爲ニ基クモノニシテ副署トハ何等ノ關係ヲ有スルモノニアラサレハナリ

### 第三章 樞密顧問

56 樞密顧問ハ樞密院顧問官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス  
樞密顧問ハ天皇ノ大權行使ニ參與スル憲法上ノ機關ナリ更ニ一層詳言スレハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議スル憲法上ノ機關ナリ(56)  
今此ノ定義ニ基キテ樞密顧問ノ性質ヲ説明スルコト次ノ如シ  
一、樞密顧問ハ憲法上ノ機關ナリ

此ノ点ニ於テ帝國議會、國務大臣、裁判所等ト何ノ異ナル所ナシ、既ニ憲法上ノ機關ナルカ故ニ憲法ヲ俟テ始メテ生スルモノニシテ、憲法ヲ廢スルニ非レハ之ヲ廢スルコトヲ得サルナリ

#### 一、合議機關ナリ

樞密顧問ハ合議機關ナリ、故ニ各顧問官個人ノ意見ヲ上ルヲ得ス、必ヤ樞密院ニ會議シ其ノ議決ニ因ル意見ヲ上ルヘキモノナリ、此点ニ於テ樞密顧問ハ帝國議會ト同シクシテ國務大臣ト異ナルナリ

#### 三、天皇ノ諮詢ニ應ヘ且ツ重要ノ國務ヲ審議スルモノナリ

天皇ノ諮詢ニ應フルモノナルノ点ニ於テ國務大臣ノ如ク自ラ進ムテ意見ヲ奉ツルモノトハ異ナルナリ、又國務大臣カ勅命ヲ奉シテ大權執行ノ任ニ當ルト異ナリ國民ニ對シ命令權ヲ行フノ權限ナク、直接政事ニ于與スルモノニアラス而シテ其ノ重要ナル國務ノ如何ハ、樞密院官制ヲ始メ憲法其ノ他ノ法律ノ定ムル所ナリ

### 第四章 裁判所

57 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
58 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス  
裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ



懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

59 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

60 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

61 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニアラス

裁判所ハ司法權ヲ行使スル憲法上ノ機關ナリ、更ニ之ヲ一層詳言スレハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ司法權ヲ行フ憲法上ノ機關ヲ謂フ (571)

今此ノ定義ニ基キテ裁判所ノ性質ヲ説明スルコト次ノ如シ

イ、裁判所ハ憲法上ノ機關ナリ

此ノ点ニ於テ裁判所ハ帝國議會、國務大臣、等ト何等異ナル所ナシ

ロ、裁判所ハ天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行フ憲法上ノ機關ナリ

「天皇ノ名ニ於テ」ト謂フハ二ノ事項ヲ意味ス一ハ司法權ト謂フモ獨立ナル權力ニアラスシテ統治權一作用ナリ統治權ノ總攬者ハ天皇ニシテ裁判所ハ唯統治權ノ一作用タル司法權ヲ行使スルニ過キサルナリ、二ハ司法權ハ裁判所カ行使スルモノニシテ天皇カ親裁セサルモノナルコト即之ナリ

ハ、裁判所ハ法律ニ依リ司法權ヲ行フモノナリ

「法律ニ依リ行フ」トハ裁判ノ手續ハ法律ヲ以テ唯一ノ準則トナスヘク法律以外ノ權勢ノ于涉ハ絶對ニ之ヲ排斥スヘキコトヲ謂ヒルナリ

裁判所ノ意義大略以上ノ如シ、今裁判所ニ關シ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

### 第一、司法權ノ獨立

司法權ノ獨立トハ統治權ノ一作用タル司法權ノ行使ハ獨立シタル裁判所ヲシテ之ヲ爲サシメ他ノ國家機關ヲシテ容喙于涉スルコトナカラシムルコトヲ謂フ

即、司法權ノ獨立ト謂フモ司法權ヲ以テ獨立シタル權力ナリトナスニアラス、統治權ノ一作用タル司法權ノ行使ハ獨立セル裁判所ヲシテ之ヲ爲サシムルノ意ニシテ其名ハ司法權ノ獨立ト謂フモ實ハ司法權ヲ行使スル裁判所ノ獨立ヲ意味セルナリ司法權獨立ノ原則ハ次ノ場合ニ於テ其ノ適用ヲ見ル即チ一ハ裁判官ノ職務ノ獨立ニシテ一ハ裁判官ノ地位ノ保障ナリ、裁判官ノ職務ノ獨立トハ其裁判ヲ爲スニ當リ他ノ官廳ノ于涉或ハ上官ノ指揮ヲ受クルコトナク自己ノ意思ニ基キ其確信スル所ニ從テ法規ヲ解釋適用スルコトヲ意味シ、裁判官ノ地位ノ保障トハ刑事又ハ懲戒處分ニ由ルノ外其意ニ反シテ職ヲ免セラル、コトナキヲ謂フ



今司法權ノ獨立ニ關スル憲法ノ規定ヲ説明スルコト次ノ如シ

一、裁判ノ手續 (57.1)

司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ。司法裁判ノ手續ハ唯一ニ法律ヲ以テ定ムヘク命令ヲ以テ定ムルヲ得ス、又司法權ノ行使ハ行政官廳ノ干涉ヲ受クルコトナキナリ、民事刑事ノ訴訟法ハ法律ヲ以テ定ムルコトヲ要スルナリ

二、裁判所ノ構成 (57.II)

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ、特別裁判所ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム。裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム、之レ第一ノ原則ヲ補充シテ司法權ノ獨立ヲ行政權ニ對シテ保障スルモノナリ

三、裁判官ノ資格 (58.I)

裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス、即法律ニ規定シタル資格要件ヲ具ヘサレハ裁判官タルヲ得サルナリ

四、裁判官ノ地位ノ保障 (58.II, III)

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム是レ第三ノ原則ト相俟テ裁判官ノ獨立ヲ全カラシムカ爲メニ其ノ地位ヲ保障シタルモノ

ニシテ之ニ依リテ裁判官ヲシテ政府ノ壓迫議會ノ干涉ヲ受クルコトナク獨立ニ法規ヲ解釋シ其ノ信スル所ニ從ヒテ公正ナル裁判ヲ爲シ憲法政治ノ目的ヲ達セシムカ爲メニ外ナラス

五、裁判ノ對審判決ノ公開 (59)

裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得之亦裁判ノ獨立公平ヲ保チ他ノ干涉ヲ排斥スルノ作用ヲ有スルモノナリトス

六、特別裁判所ノ管轄 (60)

特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ法律ヲ以テ之ヲ定ム特別裁判所トハ司法裁判所ノ中通常裁判所ニ相對スルモノニシテ一定ノ人一定ノ事項又ハ一定ノ區域内ノ事項ヲ特ニ管轄スル裁判所ヲ謂フ特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノヲ定ムルニハ法律ヲ以テスルコトヲ必要トスルハ是亦司法權ノ獨立ヲ保障セムトスルニ外ナラサルナリ

以上ハ司法權ノ獨立ヲ保障セムカ爲メニ我憲法ニ於テ設ケラレタル規定ナリ、猶此ノ外消極的ノ方面ヨリシテ司法權ノ獨立ヲ保障スル國法上ノ制度左ノ如シ

一、異議ノ申立

異議ノ申立トハ行政官吏カ其ノ職務上ノ行爲ニ因リテ人民ニ損害ヲ加ヘタリトノ理由ノ下ニ裁判



所ニ於テ訴追セラレタル場合ニ於テ行政官廳力之ニ對シ異議ヲ申出テ中止スルノ制度ヲ謂フ之レ  
司法裁判所ヲ以テ行政ノ作用ニ干涉スルコトヲ得サラシムルノ趣旨ヲ有スルモノナレトモ我國ニ  
ハ未タ此ノ制度ナシ

二、權限裁判所

權限裁判所トハ行政官廳行政裁判所及司法裁判所間ニ於ケル積極的及消極的ノ權限ノ爭議ヲ決定  
スルノ制度ヲ謂フ之レ司法裁判所カ行政ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ決定判決スルヲ得サラシメ又  
其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自己ノ權限ニ屬セストシテ放擲スルヲ得サラシムルノ趣旨ヲ有スルモノ  
ナレトモ我國ニハ未タ此ノ制度ナシ

三、行政裁判所 (61)

行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行  
政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス行政裁判所ノ制度ハ司  
法裁判所カ行政行為ヲ審査シ其ノ公益ニ適スルヤ否ヤ適法ナリヤ否ヤヲ決定スルノ權限ナキヲ明  
白ニスルノ制度ナリ

四、帝國議會ト司法裁判所

立法權ヲ以テ司務權ニ干涉スルヲ得ス即法律ヲ以テ自ラ繫争事件ヲ判決シ又ハ人民ノ請願ニ對シ

決定ノ形式ヲ以テ裁判判決ニ干涉スルヲ得ス同時ニ裁判判決ヲ以テ立法的ノ作用ヲ爲スヲ得ス即  
チ判決ヲ先例トシテ將來モ之ニ依ルヘキモノナリト定ムルヲ得ス又一ノ法律ヲ不法又ハ公益ニ反  
ストノ故ヲ以テ無効ナリトナスヲ得ス裁判判決ハ唯一ノ場合ニ對スル法ノ適用ナラサルヘカラサ  
レハナリ

第二、裁判所ノ法令審査權裁判官ハ法令審査權

裁判官ノ法令審査權ノ範圍如何ハ古來學說多シ今之ニ干シ目ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

一、形式上ノ審査

裁判官カ法令ノ形式ヲ審査スルノ權限ヲ有スルノ点ニ就テハ古來多ク反對スルモノナシ蓋法令タ  
ルニハ必スヤ一定ノ形式ヲ具備スヘキモノナルヲ以テ當該法令カ形式上ノ欠缺ヲ有スルトキハ之  
ヲ法令トシテ適用スルヲ得サレハナリ、問題トナルヘキモノニアリ

イ、裁判官ハ副署ナキ法律ヲ適用シ得ルヤ

法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス(55)故ニ副署ナキモノハ之ヲ眞ノ法律ト見ル  
ヘキモノニ非ルヲ以テ裁判官ハ之ヲ適用スルコトヲ得サルナリ

ロ、裁判官ハ議會ノ協賛ヲ經タル法律ナルヤ否ヤヲ審査スルコトヲ得ルヤ

之レ議論ノ最紛糾スル所ナリト雖今吾人ノ正當ト信スル所ニ依レハ議會ノ協賛モ無ク天皇ノ裁可



モ無キモノハ裁判官ニ於テ其ノ適用ヲ拒ミ得ヘキモ苟天皇ノ裁可セラレタルモノナル以上ハ天皇カ協賛ノ存在及適法ヲ公證スルモノナレハ之ヲ審査シ其ノ適用ヲ拒ムノ權限ヲ有セサルモノナリト信ス況ヤ協賛ノ内容ニ立入り其ノ協賛ノ議決カ適法ナリシヤ否ヤ又其ノ議決ニ與リシ議員ノ資格ノ正常ナリシヤ否ヤヲ審査スルノ權能ヲヤ

## 二、實質上ノ審査

裁判官カ法令ノ實質ヲ審査シ得ルヤ否ヤハ頗ル爭ノアル所ナリ

イ、裁判官ハ法律命令ノ實質カ憲法ニ違反セルヤ否ヤヲ審査スルコトヲ得ルヤ

裁判官ハ法律命令ノ解釋適用ヲ司ルモノナリト雖其ノ法律命令タルヤ真正ノ法律ナラサルヘカラス而シテ我憲法上法律命令ハ其ノ効力ニ於テ憲法ノ下ニアリ、憲法ニ抵觸スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ憲法ニ抵觸シタル法律命令ハ我國法トシテ真正ニ其効力ヲ有スルモノニアラス故ニ裁判官ハ法律命令カ憲法ニ違反セルヤ否ヤヲ審査スルノ權能ヲ有スルナリ

ロ、裁判官ハ命令ノ實質カ法律ニ違反セルヤ否ヤヲ審査スルコトヲ得ルヤ

我國法上命令ニハ三種ノ別アリ然レトモ大權命令及緊急勅令ニ付キテハ特ニ法律トノ關係ニ於テ說クノ要ナシ、憲法第九條ノ命令ハ其ノ効力ニ於テ法律ノ下ニアルモノナルヲ以テ、若シカ、ル命令ニシテ法律ニ抵觸スルトキハ我國法トシテ真正ニ其ノ効力ヲ有スルモノニアラス故ニ裁判官ハ

カ、ル命令カ法律ニ違反セルヤ否ヤヲ審査スルノ權限ヲ有スルナリ

## 第五編 統治權ノ作用

### 第一章 立法權

立法權ナル語ハ實質的及形式的ノ二意義アリ實質的意義ニ於テ立法權トハ法規ヲ制定スル統治權ノ作用ヲ謂フ此意義ニ於テ立法權トハ統治權ト稱スルナリ

形式的意義ニ於テ立法權トハ憲法上所謂法律ヲ制定スル統治權ノ作用ヲ謂フ此意義ニ於テ立法權トハ帝國憲法ノ上ニ於テ統治權行動ノ形式ヲ定メタルノ結果トシテ生シタル所ニシテ憲法上所謂法律ヲ制定スル統治權ノ作用ヲ以テ特ニ立法權ト稱スルナリ

憲法ニ於テ天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ(5)ト唱フ場合ニ於テ立法權トハ即此ノ意義ニ於テ使用シタルニ外ナラス然ルニ或ハ之ニ對シテ反對說ヲフル者アリ曰ク我帝國憲法第五條ニ於テ立法權ハ法規ヲ制定スルノ統治權ノ作用ナリ、憲法第三十七條ニ於テ所謂法律トハ法規ノ意味ヲ有スルナリ故ニ帝國憲法ニ於テ法規ヲ制定スルハ天皇カ議會ノ協賛ヲ以テ之ヲ爲スヲ原則トス從テ法律ノ制定ハ立法ノ範圍即チ形式法律ヲ以テ規定スヘキ範圍ニ包括セラルモノナリト然レトモ吾人ハ次ノ理由ノ下ニ此ノ說ヲ非ナリト信ス即



イ、若シ憲法ニ於テ立法權トハ法規ヲ制定スル統治權ノ作用ナリトシ法律トハ汎ク法規ヲ指稱スルモノナリトナストキハ既ニ第五條ニ於テ總テ法規ハ議會ノ協賛ヲ經テ定ムヘシトノ一般ノ原則ヲ定ムル以上ハ憲法中法律ナル形式ヲ以テ法規ヲ定ムヘキコトヲ規定シタル明文ハ悉ク不必要トナルニ至ルヘシ

ロ、或ハ曰ク、憲法第五條ノ立法權ナル文字及ヒ第三十七條ノ法律ナル文字ヲ形式的ニ解スヘキモノナラハ第三十七條ハ「凡テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキ命令ハ議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要ス」トナリテ無意味ニ歸スヘシト然レトモ是レ憲法第三十七條カ法律ノ定義ヲ與ヘタルモノナルコトヲ知ラサルニ坐スルノ僻論ナリ

今立法權ニ關シ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

### 第一、立法權ノ範圍

立法權ノ範圍ハ憲法ニ依リテ定マル、而シテ憲法ハ立法權ニ對シテ積極的及消極的ノ二方面ヨリ之カ範圍ヲ制定セリ

#### 一、消極的の限界

立法權ニ對スル消極的の限界ニアリ憲法上ノ大權事項及司法事項即之ナリ  
イ、憲法上ノ大權事項

憲法上ノ大權事項トハ憲法上ノ大權ノ親裁ヲ必要トスル事項ナリ是等ノ事項ハ憲法上ノ大權ノ獨立ヲ維持セムカ爲メニ規定セラレタルモノニシテ、モトヨリ帝國議會ノ于犯ヲ容ルヘキモノニアラス故ニ法律ヲ以テ憲法上ノ大權事項ヲ規定スルヲ得サルナリ

#### ロ、司法事項

司法事項トハ憲法上裁判所カ之ヲ行フコトヲ必要トスル事項ナリ是等ノ事項ハ司法權ノ獨立ヲ保障セムカ爲メニ制定セラレタルモノニシテ、モトヨリ帝國議會ノ干犯ヲ容ルヘキモノニアラス故ニ法律ヲ以テ司法事項ヲ規定スルヲ得サルナリ

#### 二、積極的の限界

立法權ノ積極的の限界ハ憲法上ニ於ケル立法事項即之ナリ憲法上ノ立法事項トハ憲法ニ於テ必法律ヲ以テ定ムヘキコトヲ必要トナセル事項ナリ蓋立法權ノ範圍ヲ定ムルニ於テ二個ノ方法アリ一ハ凡テ法規ハ必法律ノ形式ヲ以テ定ムヘシトナスモノニシテ原則主義即之ナリ一ハ法律命令共ニ法規ヲ定ムルコトヲ得ルモノトナシ其ノ中法律ノ形式ヲ以テスヘキモノハ憲法ニ於テ明言セルモノニシテ列記主義即之ナリ我憲法ハ列記主義ニ則ル而シテ憲法ノ列記ハ限定ニハアラス其ノ以外ハ立法權ノ自由事項ニ屬スルナリ

今憲法上ノ立法事項即憲法ニ於テ法律ノ形式ヲ以テ定ムルコトヲ必要トスル事項ヲ列記スレハ次



ノ如シ

- 一、戒嚴ノ要件及効力 (14)
- 二、日本臣民タルノ要件 (18)
- 三、兵役ノ義務 (20)
- 四、納税ノ義務 (21)
- 五、居住及移轉ノ自由ノ制限 (20)
- 六、身体ノ自由ノ制限 (23)
- 七、裁判ノ自由ノ制限 (24)
- 八、住所ノ不可侵ノ制限 (25)
- 九、信書ノ秘密ノ制限 (26)
- 十、所有權ヲ侵害スルノ處分 (27)
- 十一、言論著作印行集會及結社ノ自由ノ制限 (28)
- 十二、衆議院議員選舉法 (35)
- 十三、議院法 (51)
- 十四、司法權ノ行使 (57. I)

- 十五、裁判所ノ構成 (57. II)
  - 十六、裁判官ノ資格 (58. I)
  - 十七、裁判官ノ任免及懲戒 (58. II)
  - 十八、裁判ノ對審判決ノ公開 (59)
  - 十九、特別裁判所ノ管轄 (60)
  - 二十、行政裁判所 (61)
  - 廿一、新ナル租税ノ賦課及税率ノ變更 (62)
  - 廿二、會計檢査院ノ組織及權限 (72)
- 以上ノ外後ニ之ヲ述フルカ如ク命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得ス即一度法律ヲ以テ定メタル事項ハ又法律ヲ以テセサレハ之ヲ定ムルヲ得スカクノ如キ事項ハ憲法上ノ立法事項ニハ非レトモ猶且憲法上ノ立法事項ト同一ノ効力ヲ有スルモノニシテ或ハ之ヲ形式上ノ立法事項ト稱スヘシ
- 第二、法律制定ノ手續
- 法律トハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ天皇ノ裁可公布シタル國法ヲ謂フ (37、6) 今其ノ制定ノ手續ヲ説明スルコト次ノ如シ
- 一、法律案ノ提出 (38)



一、法律案ノ提出トハ帝國議會ノ議決ニ附セムカ爲メニ法律案ヲ議會ニ提出スルコトヲ謂フ法律案ヲ提出スルノ權能ハ政府及兩議院ノ有スル所タリ(38)故ニ議員カ法律ノ草案ヲ起草シ之ヲ其ノ屬スル院ニ提出スルカ如キハ法律案ノ提出ニハ非ルナリ

法律案ノ提出ニハ憲法上一ノ制限ヲ設クタリ即兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルヲ得サルコト即之ナリ(39)

## 二、法律案ノ議決(38)

法律案ノ議決トハ帝國議會ノ兩院ノ議決ノ相一致スルコトヲ謂フ、天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ(5)凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルコトヲ要ス(37)故ニ法律案ハスベテ帝國議會ノ議決ヲ經サルヘカラサルナリ、既ニ兩院ノ議決ノ相一致ト謂フ、一院之ヲ否決スレハ他ノ一院ノ否決ヲ俟タスシテ法律案ハ否決セラレタルナリ

法律案ニ對スル議會ノ協贊ノ效果ハ君主國ニ於ケルト民主國ニ於ケルトニ於テ相異ナル、民主國ニ於テハ統治權ノ總攬者ハ國民全体ニシテ議會ハ其ノ代表者ナルカ故ニ特ニ裁可權ヲ他ニ與ヘサル以上ハ議會ノ議決ニヨリテ單ニ法律ノ實質ヲ確定スルノミナラス法律案其モノモ亦完成ス、反之君主國ニ於テハ帝國議會ハ立法權ノ行使ニ參與スルモ自ラ立法權ヲ行使スルモノニアラス議會ノ議決ハ單ニ法律ノ實質ヲ確定スルニ止マリ之ヲ以テ國法タルノ效力ヲ發生セシムルニハ君主ノ

裁可ナル行爲ヲ要スルナリ

## 三、法律ノ裁可(6)

法律ノ裁可トハ法律案ニ對シテ拘束力ヲ附與スル天皇ノ行爲ヲ謂フ、法律案ハ議會ノ議決ヲ經タルノミニテハ未タ依然トシテ法律案ニシテ臣民ヲ拘束スルノ效力無シ天皇ノ裁可アルニ因リテ始メテ完成スルモノナリ

## 四、法律ノ公布(6)

法律ノ公布トハ既ニ完成シタル法律ヲ外部ニ發表スルコトヲ謂フ、公布ノ效果ハ法律ノ拘束力ヲ發生セシムルコトニアリ換言スレハ法律ハ裁可ニ依リテ完成スルモノナリト雖之ヲ適用スル上ニ於テ公布ノ手續ヲ經ルコトヲ一ノ要件トナスモノナリ、是レ實ニ立憲國ニ於テハ法律ヲ人民ニ適用スルニ當リ、之ヲ公布スルヲ以テ必要條件ト爲スヲ原則トナスニ由ルモノナリ故ニ法律ノ公布ハ單ニ執行上ノ要件ニ止マリテ法律成立上ノ要件ニアラス、其ノ結果トシテ公布ニ誤リアリタルトキハ裁可ノ原文ニヨリテ之ヲ訂正スルコトヲ得ルモノニシテ法律ノ政正ヲ必要トスルモノニアラス若シ之ニ反シテ法律ハ公布ニヨリテ成立スルモノト爲ストキハ官報誤刷ノ場合ニ於テハ法律變更ノ手續ニ依ルニ非レハ之ヲ訂正スルコト能ハサルノ結果ニ陥ルヘキナリ



豫算ハ其ノ實質上ヨリ之ヲ見レハ毎年度ニ於ケル國家ノ收入支出ノ見積ナリ國家財政ハ此ノ見積ニ於テ其ノ收支ヲ企畫ス

豫算ハ是ヲ法律上ヨリ見ルトキハ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカ換言スレハ豫算ノ法律上ノ性質如何是レ議論ノ存スル所ナリ

一、豫算ハ法律ナルカ

曰ク然ラス豫算ハ法律ナリトノ説ハ豫算ハ法律ヲ以テ定ムトノ憲法ノ規定ナキ我國ニ於テハ實質カ法規ニアラサル豫算ヲ以テ形式上ニ於テモ法律ナリトナスノ理由無キノミナラス若シ豫算ヲ以テ法律ナリトナス時ハ豫算ヲ以テ法律ヲ動カシ得ルコトハナリテ憲法第六十七條ハ無用ニ歸スレハナリ

二、豫算ハ財政事務處理ノ委任狀ナリヤ

曰ク然ラス豫算ヲ以テ財政事務處理ノ委任狀ナリトノ説ハ豫算ハ時ノ政府ニ對シ財政處理ノ全權ヲ附與スルモノニシテ豫算無クシテ政府ハ其ノ權能ヲ有セサルニ至ルモノニシテ我國ノ如ク國務大臣ノ任免ハ全ク天皇ノ大權内ニ在ル國ニ於テハ行ハレサルナリ加之此ノ説ハ議會カ財政上ノ大權ヲ有スルコトヲ前提トナスモ之亦財政上ノ大權カ天皇ニ屬スル我憲法ノ原理ト相容レサルナリ

三、豫算ハ財政ヲ爲スノ必要條件ナリヤ

曰ク然ラス、豫算ヲ以テ財政ヲ爲スノ必要條件ナリトナスノ説ハ豫算ノ存在ハ收支ヲ爲スノ必要條件ニシテ之ナキトキハ政府ハ財政行爲ヲ爲スコトヲ得スト云フニ在リ。然レトモ我憲法上豫算ハ財政行爲ヲ爲スノ標準トシテ政府ハ之ニ準據スヘキモノナルモ豫算ノ存在ヲ以テ政府ノ收支權限實行ノ條件トナシ豫算ナクシテ政府ハ收支ヲ爲スコトヲ得スト見ルノ根據無キヲ以テ此ノ説ハ之ヲ採用スルヲ得ス

四、豫算ハ政府ノ議會ニ對スル責任ヲ議會ニ於テ豫メ解除スルコトヲ承認スルノ手段ナリヤ

曰ク然ラス此ノ説ハ政府ハ豫算ノ存在ナクシテ財政事務ヲ行フコトヲ得ヘシト雖其ノ場合ニ其ノ收入及ヒ支出ニ付キ必要ナリシ理由ヲ説明シテ議會ニ對スル責任ノ免除ヲ求メサルヘカラス反之豫算成立シ之ニ依リ、收入支出ヲ爲ストキハ政府ハ議會ニ對シテ責任ナシト云フニ在リ然レトモ此ノ説ハ協賛ト承諾トヲ同一視スルノ非難ナルノミナラス、此ノ説ハ政府ハ議會ニ對シテ責任ヲ負フモノナルコトヲ前提トナスモノナレトモ我國ニ於テハ政府ハ議會ニ對シテ法律上ノ責任ヲ負擔スルモノニアラサルヲ以テ此ノ説ハ之ヲ採用スルヲ得サルナリ

吾人ノ正當ト信スル所ニ依レハ豫算ハ天皇ヨリ行政官廳ニ對シテ與フル所ノ財政上ノ訓令ナリト信ス、蓋明治十四年四月太政官達第三十三號ノ會計法ハ政府ノ出納ハ必豫算ニ據テ執行スヘキヲ



定メ前年ノ收入ニ依ル全額ヲ以テ次年ノ收支ニ混スルヲ禁シ且確定豫算小科目以上ノ費用ノ流用ヲモ禁シ(流用ヲ要スル場合ハ府縣廳以上ノ各廳ハ太政官府縣廳ハ大藏卿ノ許可ヲ取クルヲ要ス)タルニヨリ我憲法制定以前ノ豫算ハ全ク君主ノ訓令タリシコト疑ナシ即天皇カ行政官廳ニ對シテ下ス所ノ財政上ノ訓令タリシナリ而シテ憲法發布以後ハ豫算ハ議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スルコト、ナリタルトモ之カ爲メニ其性質ニ變更ヲ受ケタルコトナシ故ニ我カ豫算ハ天皇ヨリ行政官廳ニ對シテ與フル所ノ財政上ノ訓令ナリト信スルナリ此ノ訓令ノ効果トシテ行政官廳ハ財政上ノ收支ニツキ一定ノ拘束ヲ受クルナリ

豫算ノ性質ハ右ノ如シ今之ニ關シ項ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

第一、豫算制定ノ手續

一、豫算案ノ提出 (65)

豫算案ノ提出ハ法律案ノ提出ト異ナリテ單ニ政府ノ有スル權限ナリ、又法律案ノ提出ハ兩院中ノ孰レニ提出スルモ可ナレトモ豫算案ノ提出ニ付テハ衆議院ヲ先ニスヘキ憲法上ノ制限アリ (65)

二、豫算案ノ編成

豫算編成ニ關スル原則左ノ如シ

イ、豫算ハ毎年之ヲ定メサルヘカラス (64)

國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス若シ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要スルナリ唯之ニ對スル例外ハ後ニ述フヘキ繼續費之ナリトス (66)

ロ、會計年度前ニ確定スルヲ要ス (會5)

三、豫算ハ不可分ナリ (會2)

豫算ハ不分割ヲ原則トスルモノニシテ一會計年度ノ總收入及ヒ總支出ハ之ヲ單一ノ豫算ニ記載シ特別ノ事項又ハ特別ノ期間ニ對スル別個ノ豫算ヲ設クルヲ得ス、固ヨリ豫算不分割ノ原則ハ我憲法第六十四條ノ明文ノミニテハ疑ナキニアラサルモ憲法第七十二條ハ豫算成立ニ至ルマテ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシト規定セスシテ單ニ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシト規定シタルコト及ヒ法律ト同時ニ施行セラレタル會計法第二條ノ規定トヨリシテ之ヲ考フル時ハ憲法ノ精神モ豫算不分割ノ原則ヲ採用シタルモノナルコトヲ推定スルニ難カラス

豫算不分割ノ原則ニ對シテ二個ヲ例外アリ特別會計及ヒ追加豫算之ナリトス

四、豫算ハ憲法算命令ヲ基礎トシテ之ヲ規定スルコトヲ要ス

豫算ハ天皇ヨリ行政官廳ニ對シテ與フル所ノ財政上ノ訓令ナリ之ヲ以テ法律命令ニ背反スヘカラ



サルハ明ナリ猶其詳細ナル説明及之ニ對スル例外等ハ後ニ述フヘキ所ナリ

五、豫算中ニ豫備費ヲ設クルヲ必要トス (63)

第三、豫算案ノ議決

豫算案ノ議決ニ關シテ説明ヲ要スルハ帝國議會ノ豫算議定權ニ對スル制限ナリ之ヲ分チテ二トナス一ハ豫算ノ本質ヨリ生スルモノニシテ他ハ憲法ノ規定ヨリ生スルモノナリ

一、豫算ノ本質ヨリ生スル制限

豫算ハ天皇ヨリ行政官廳ニ對シテ與フル所ノ財政上ノ訓令ナリ故ニ豫算ヲ以テ法律命令ニ背反スルコトヲ得ス換言スレハ豫算ノ議定ハ法律命令ノ範圍内ニ於テセサルヘカラス、蓋法律命令ニアラサルモノヲ以テ法律命令ニ違反スルコトヲ得サレハナリ其ノ結果トシテ

イ、法律命令ニ於テ目的ヲ定ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ豫算ヲ以テ之ニ必要ナル費用ヲ廢除スルヲ得ス

ロ、法律命令ニ於テ目的及金額ノ定マレルトキ

此ノ場合ニ於テハ之ヲ廢除スル能ハサルハ勿論之ニ必要ナル金額モ亦削減スルヲ得ス

ハ、法律命令ニ於テ目的モ事業モ共ニ定マラサルトキ

此ノ場合ニ於テハ帝國議會ハ事項ヲ廢除シ得ルノミナラス金額ヲモ削減シ得ルモノナリ

以上ハ豫算ノ本質ヨリ生スル豫算議定權ニ對スル制限ナリ

二、憲法ノ規定ヨリ生スル制限

イ、皇室經費 (66)

皇室ノ經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

ロ、憲法第六十七條 (67)

憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

ハ、繼續費 (98)

特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

二、豫備費

避クヘカテサル豫算ノ不足ヲ補フ爲メニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ノ爲メニ豫備費ヲ設クルコトヲ要ス

第四、豫算ノ不成立 (71)

帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルキトハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘキ



モノナリ

以上ハ憲法上豫算ニ關スル規定ノ大体ナリ猶此ノ序ヲ以テ憲法上ニ於ケル會計ニ關スル規定ヲ併セテ説明スヘシ

第一、租税ノ賦課 (62. I) (63)

新ニ租税ヲ課シ及税率ヲ變更スルニハ法律ヲ以テ定ムルコトヲ要ス、唯報價ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ此ノ限リニ在ラサルナリ

第二、國債及豫算外國庫ノ負担トナルヘキ契約 (62. II)

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要ス

第三、財政上ノ緊急處分 (70)

公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上緊急ノ處分ヲ爲スコトヲ得而シテ此ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要スルナリ

第四、歳出歳入ノ決算 (72)

國家ノ歳入歳出ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査確定ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提

出スヘキモノナリ而シテ會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要スルモノナリトス

### 第三章 司法權

司法權トハ民事刑事ノ裁判ヲ行フ國家統治權ノ作用ヲ謂フ

今此ノ定義ヲ分拆シテ説明スルコト次ノ如シ

一、司法權ハ統治權ノ作用ナリ

司法權ト謂フモ統治權ノ一作用ニシテ司法權ナル一ノ權力カ存在スルモノニアラス、若シ司法權ヲ以テ一ノ獨立ナル權力ナリトセハ國家ノ下ニ國家アルコト、ナリテ國家ノ統一性ヲ害スヘケルハナリ

二、司法權ハ裁判ヲ行フ國家統治權ノ作用ナリ

裁判トハ特別ノ形式ヲ以テ特定ノ事件ニ對シ法規ノ適用ヲ確定スル權力的作用ヲ謂フ、コヽニ特定ノ形式トハ原告被告ノ當事者ヲ參與セシメ其ノ双方ノ陳述辯論ヲ聽キタル後判定ヲ下スコトヲ指稱ス、司法權ハ此ノ裁判ヲナス國家統治權ノ作用ナリ

三、司法權ハ民事刑事ノ裁判ニ關スルモノナリ

司法權ハ民事刑事ノ裁判ニ關スモトヨリ廣ク裁判ト謂フトキハ單ニ民事刑事ニ就テノミ存在スル



ノミニアラシテ、汎ク法律ノ各種ノ領域ニ付テ存在ス、然レトモ我憲法上ニ於テ司法權ハ民事  
刑事ノ裁判ニ關スルモノニシテ主トシテ沿革ニ基ク、民事トハ私法上ノ權利義務ノ争ニ關スル訴  
訟事件ナリ、刑事トハ國家カ犯罪人ニ對シテ刑法法令ヲ適用スル訴訟事件ナリ、故ニ曰ク司法權  
トハ民事刑事ノ裁判ニ關スルモノナリト

司法權ハ裁判所ノ行フモノナルコトハ前既ニ之ヲ述ヘタリ、然レトモ裁判所ノ行フ作用ハ悉ク司  
法ニ屬スルモノト云フ能ハス、司法裁判所ノ行フモノノ中司法行爲ト然ラサルモノトアリ、民事  
刑事ノ裁判ハ前者ニシテ、非訟事件又ハ強制執行事務ノ如キハ後者ナリ、然ルニ後者ヲモ猶司法  
權ニ屬スルモノトナシ、スヘテ司法裁判所ノ權限ニ屬スル作用ハ司法權ナリトシテ之ヲ形式的意  
義ニ於ケル司法權ト稱シ、民事刑事ノ裁判ヲナスノ權ヲ實質的意義ニ於ケル司法權ト稱スルニ相  
對スルモノナリ、然レトモ吾人ハ此ノ觀念ヲ採用セス蓋我憲法ニ於テ司法權ナル語ニハ決シテ實  
質的形式的ノ意義ヲ存スルコトナキノミナラス司法裁判所ノ權限タル非訟事件、強制執行事務  
ハ決シテ司法ニアラサルノミナラス、司法裁判所以外ノモノカ行フニキハタトヒ民事刑事ノ裁判  
タリトモ之ヲ司法ニアラストナストキハ民事刑事ノ裁判權ヲ以テ總テ裁判所ノ手ヨリ奪ヒテ行政  
官廳ノ手ニ移スモ違憲トナラサルコト、ナリテ、憲法カ司法權ノ獨立ヲ保障シタル趣旨ヲ全然没  
却スルニ至レハナリ

## 第四章 憲法上ノ大權

### 第一節 憲法上ノ大權事項

我憲法ニ於ケル大權ナル文字ニ廣狹ノ二意義アリ廣義ニ於テ大權トハ統治權ノ作用中官廳ニ委任  
セラレサル總テノ作用ヲ指稱ス、故ニ統治權ノ作用ノ官廳ニ委任セラル、作用即司法及行政ノ外  
ハ悉ク此ノ意義ニ於ケル大權ノ中ニ包含セラル、モノトス (17)

狹義ニ於テ大權又ハ憲法上ノ大權トハ廣義ニ於ケル大權作用中天皇ノ親裁ヲ必要トスル、總テノ  
作用ヲ指稱ス、故ニ廣義ノ大權作用即官廳ニ委任モラレサル總テノ作用中議會ノ協贊ヲ必要トセ  
サル作用ハ悉ク此ノ意義ニ於ケル大權ノ中ニ包含セラル、モノトス (67)

今狹義ニ於ケル大權即憲法上ノ大權ノ意義ニ關シ分拆シテ説明スルコト次ノ如シ

一、憲法上ノ大權ハ天皇ノ親裁ヲ必要トスル統治權ノ作用ナリ

天皇ノ親裁ヲ必要トスルノ意義ハ二方面ヨリ之ヲ證明シ得、一ハ他ノ官廳ニ委任スルヲ得サルコ  
トニシテ即司法權又ハ行政權ト異ナル所ナリ他ハ帝國議會ノ協贊ヲ必要トセサルコトナリ是レ親  
シク官廳ニ委任スルコトヲ得サル統治權ノ作用中議會ノ協贊ヲ必要トセサル作用タル立法豫算ノ  
制定、起債及ヒ豫算外國庫ノ負担トナルヘキ契約ヲナスコト、ハ異ナル所ナリ、而シテ單ニ議會  
ノ協贊ヲ許サ、ルナリ是蓋憲法ニ於テ特ニ一定ノ事項ニ限り天皇カナスヘキコトヲ定メタルヨリ



シテ之ヲ察シ得ナナリ何ルナレハ天皇ハ統治權ノ總攬者ナリ、故ニ特ニ列記セストモ他ノ官廳ニ委任スヘキコトヲ定メラレサル事項ハ天皇カ總攬スヘキハ自明ノコトナレハナリ

二、憲法上ノ大權ハ憲法上ノ觀念ナリ

天皇ハ統治權ノ總攬者ナリ故ニ憲法ニ於テ特ニ他ノ官廳ニ委任スヘキコトヲ明記セサルモノハ天皇ノ總攬スヘキモノナルコトハ極メテ明瞭ナルコトニ屬ス特ニ一定ノ事項ハ天皇ニ屬スルトセラ

ルハ憲法ヲ俟テ始メテ生スルコトナリ故ニ曰ク憲法上ノ大權ハ憲法上ノ觀念ナリト

憲法上ノ大權ニ屬スル事項ヲ憲法上ノ大權事項ト稱ス即天皇ノ親裁ヲ必要トスル統治權ノ作用ナリ今之ヲ列舉スレハ次ノ如シ

一、法律ノ裁可公布及執行 (6)

天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス立法權ハ天皇ニ屬ス而シテ法律ノ裁可及其ノ公布及執行ヲ命スルハ天皇憲法上ノ大權ナリ

二、帝國議會ノ召集、開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散

天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス之亦憲法上ノ大權タリ

三、緊急勅令ノ發布 (6)

四、命令ノ發布 (9)

緊急勅令等ノ命令ノ發布ハ天皇憲法上ノ大權ナリ緊急勅令ノ發布ハ論スヘキ事項多キヲ以テ節ヲ改メテ説明スヘシ

五、官制ノ制定文武官ノ任免及俸給ノ確定 (10)

官制トハ官廳ノ組織及權限ヲ定メタル規則ヲ謂フ

天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル、即官制ノ制定文武官ノ任免及俸給ノ確定ハ天皇憲法上ノ大權ナリ

六、陸海軍ノ統帥 (11)

天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス、陸海軍ノ統帥ハ天皇憲法上ノ大權タリ、陸海軍ノ統帥トハ天皇カ大元帥トシテ陸海軍ノ軍隊ヲ指揮活動セシムルコトヲ指稱スルモノナリ

七、陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ノ確定 (12)

天皇ハ陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ム陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ノ確定ヲ以テ天皇ノ大權ニ屬セシメタルハ一ニ國防上ノ支障ナキヲ期シタルナリ

八、宣戰媾和及條約ノ締結 (13)

天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ媾シ及諸般ノ條約ヲ締結ス、即宣戰、媾和及條約ノ締結ハ天皇憲法上ノ大權



タリ、條約ニ就キテハ述フヘキコト多キヲ以テ節ヲ改メテ説明スヘシ  
九、戒嚴ノ宣告 (14)

天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス、戒嚴ノ要件及效力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム、即戒嚴ノ宣告ハ天皇憲法上ノ大權タリ、戒嚴トハ戰時又ハ事變ニ際シ一定ノ區域内ヲ警戒スルコトニシテ其ノ效果トシテ司法及行政ノ作用ハ普通ノ官廳ヨリ軍事上ノ官廳ニ移ルモノナリトス

十、榮典ノ授與 (15)

天皇ハ爵位、勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス即榮典ノ授與ハ天皇憲法上ノ大權ナリ

十一、大赦、特赦、減刑及復權 (16)

天皇ハ大赦、特赦、減刑及復權ヲ命ス恩赦ハ天皇憲法上ノ大權タリ

十二、貴族院令ノ制定 (34)

十三、財政上ノ緊急處分 (70)

十四、憲法改正ノ發案及改正 (73)

十五、皇室典範ノ改正 (74)

第二節 命令

8、天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ

於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

6、天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

命令トハ天皇ノ大權ニ依リテ制定シタル法規ヲ謂フ

即命令ナル觀念ハ一方ニ於テハ法律ニ對シ他方ニ於テハ處分ニ對ス

一、命令ハ法律ニ對スル觀念ナリ

命令ナル觀念ハ一方ニ於テ法律ニ對ス、法律トハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ天皇ノ裁可公布シタル法規ナリ命令ハ之ニ對シテ帝國議會ノ協賛ヲ經ルコトナクシテ天皇ノ制定スル法規ナリ

二、命令ハ處分ニ對スル觀念ナリ

命令ナル觀念ハ他ノ一方ニ於テ處分ニ對ス、處分ハ具體的特定のニ個々ノ事件ニ對スルモノナルニ反シ、命令ハ抽象的ニ事物ヲ規律スルモノナリトス、然レトモ是レ大体ノ原則ナリ時ニ例外ナキニモアラス故ヲ以テ絶對的ノ區別トシテハ形式ニ求ムルノ外ナシ即命令ハ命令ノ形式ニ依リ處分ハ處分ノ形式ニ依ルノ点ニ在リ



命令ヲ其ノ性質上ヨリ分チテ四トナス、緊急勅令執行命令、獨立命令及委任命令即之ナリ  
今是等ニ關シ項ヲ分チテ説明スヘシ

### 第一、緊急勅令(8)

緊急勅令ハ法律ニ代ル命令ナリ憲法上ノ立法事項ハ法律ニ依ルニ非レハ之ヲ定ムルヲ得サルヲ原則トス然レトモ議會ノ閉會中法律ヲ制定スヘキ臨時緊急ノ必要ヲ生シタル場合ニ於テ徒ニ議會ノ開會ヲ待ツハ國家ノ爲メニ不利ナルヲ以テ一時命令ヲ以テ法律ニ代フルノ規定ヲ爲スコトヲ得セメシタルナリ

今緊急勅令ニ關シ目ヲ分チテ説明スルコト次ノ如シ

#### 一、緊急勅令ノ要件

イ、議會閉會中ナルコト(時期)

議會開會中ナラハ固ヨリ法律トシテ議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要スルナリ

ロ、公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クルカ爲メナルコト(目的)

即其ノ目的ハ消極的ナリ、積極的ニ公共ノ福利ヲ増進スルカ爲メニ緊急勅令ヲ發スルコトヲ得スハ緊急ノ必要アルコト(緊急)

茲ニ緊急トハ少クトモ次期ノ議會ノ開會ヲ待ツコト能ハサル程度ニ於テ必要ノ切迫セルコトヲ謂

フ(30) 參照

#### 二、緊急勅令ノ範圍

緊急勅令ハ法律ニ代ルヘキ命令ナリ故ニ其ノ範圍ハ法律ノ規定シ得ヘキ範圍ト同シ從テ法律ヲ以テ規定シ得サル事項ハ緊急勅令ヲ以テ規定シ得ヘキ限ニ在ラス

#### 三、緊急勅令ノ效力

イ、緊急勅令ノ形式的效力

緊急勅令ハ憲法第八條ノ明文ノ明ニ規定セルカ如ク法律ニ代ルヘキ勅令ナリ、法律ニ代ルヘキトハ其ノ内容ニ於テ法律ト同一ナル事項ヲ規定シ得ヘキコトヲ意味スルモノニシテ其ノ形式ハ勅令ナリ、從テ其ノ形式的效力ハ勅令ト同シ、故ニ緊急勅令ヲ廢止スルニハ法律又ハ緊急勅令タルコトヲ要スト謂フノ理由ナシ命令ヲ以テモ之ヲ廢止スルコトヲ得、唯緊急勅令ノ變更ハ自ラ立法事項ヲ定ムルモノナルヲ以テ法律又ハ緊急命令ヲ以テスルコトヲ必要トス

ロ、緊急勅令ノ實質的效力

緊急勅令ハ法律ニ代ルヘキ勅令ナリ故ニ其ノ内容ニ於テ法律ト同一ノ事項ヲ規定スルコトヲ得ルナリ

#### 四、緊急勅令ノ承諾



緊急勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ。蓋緊急勅令ハ立法事項ハ法律ヲ以テ定ムヘシトノ原則ニ對スル一ノ例外ナルヲ以テ議會ノ承諾ニヨリ此ノ例外ヲ原則ニ復歸セシムトスル政治上ノ意義ヲ有スルモノナリ、然レトモ緊急命令ハ憲法ノ規定ニ基ク適法ナルヲ以テ議會ノ承諾ハ一派ノ論者ノ唱フルカ如ク、不法行爲ノ責任解除ニアラス條件付法律行爲ノ解除條件ニアラス、又違法ナル行爲ノ追認ニハアラス法律上ノ性質トシテハ單ニ緊急勅令ヲ將來ニ存續セシムヘキヤ否ヤニノミ關スルナリ、議會ノ承諾アリタルトキハ緊急勅令ハ將來ニ對シテ完全ナル効力ヲ保持ス、然レトモ之カ爲メニ法律トナルニハアラス、蓋承諾ハ協贊ニアラサレナリ、議會ニ於テ承諾セサルトキハ即議會カ緊急勅令ノ効力ヲ將來ニ存續セシムルヲ以テ不可トナシタルモノナルヲ以テ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スルヲ要スルナリ

猶緊急勅令ニ關シテ問題トナルヘキモノ一二アリ、即左ノ如シ

一、緊急勅令ハ次ノ會期ニ於テ議會ニ提出スル以前ニ廢止スルコトヲ得ルヤ  
 憲法第八條第一項ノ要件ヲ具備スル以上ハ緊急勅令ヲ以テ緊急勅令ヲ廢止スルコトヲ得ヘク、然ラストモ緊急勅令ヲ存續セシムル必要ナキニ至リタルトキハ單純ナル命令ヲ以テ緊急勅令ヲ廢止スルコトヲ得ヘシ

二、次ノ會期ニ提出スル以前ニ廢止シタル緊急命令ハ議會ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要スルヤ

議會ノ承諾ハ前既ニ之ヲ述ヘタルカ如ク、緊急命令ノ効力ヲ將來ニ存續セシムヘキヤ否ヤニ關ス故ニ既ニ廢止シタル緊急命令ニハ、議會ノ承諾ヲ求ムル必要ハ存セサルモノナリト信ス

第二、執行命令（9前段）

執行命令トハ法律ヲ執行スルカ爲メニ其ノ細目ヲ規定スルノ目的ヲ以テ發セラル、命令ナリ

既ニ法律ヲ執行スルヲ以テ目的トス故ニ不備ナル点ヲ補充スルカ如キハ執行命令ノ爲シ得ヘキ限ニ在ラス

今執行命令ニ關シテ目ヲ分チテ説明セムニ

イ、執行命令ノ制定者ハ天皇又ハ其ノ委任ヲ受ケタルモノナリ之憲法第六條及第九條ノ明ニ定ムル所ナリ

ロ、執行命令ノ規定シ得ヘキ範圍ハ其ノ法律ヲ執行スル以外ニ涉ルコトヲ得ス、故ニ其ノ法律ノ規定ノ範圍外ニ涉リ又ハ其ノ法律ニ牴觸スルコトヲ許ササルナリ

ハ、執行命令ノ効力ハ其ノ基本タル法律ノ廢止セラルト共ニ消滅スルモノナリ蓋執行命令ハ法律ヲ執行スルコトヲ目的トスルモノナルヲ以、テ根幹タル法律カ其ノ存在ヲ失ヒテ、枝葉タル執行命令ノミ其ノ効力ヲ維持スヘキノ理由ハ無ケレハナリ



## 第三、獨立命令(9)

後段獨立命令トハ法律以外ニ獨立ニ制定セラレ、法規命令ナリ即一層之ヲ詳言スレハ法律ニ代ル爲メニアラス法律ヲ執行スル爲メニアラス又法律ノ委任ニ基クニモアラサル法規命令ナリ歐洲諸國ニ於テハ法規ハ總テ議會ノ協賛ヲ經タル法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ原則トナスニ反シ我憲法ハ第九條ニ於テ此ノ獨立命令ヲ公然認メタルハ行政上實際ノ必要ニ應スルカ爲メニシテ我憲法ノ特質ノ一タリ

今獨立命令ニ關シ目ヲ分チテ説明セムニ

イ、獨立命令ノ制定者ハ天皇又ハ其ノ委任ヲ受ケタルモノナリ。之レ憲法第九條ノ明ニ定ムル所ナリ

ロ、獨立命令ノ規定シ得ヘキ範圍ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進スルカ爲メニ發シ得ヘキモノナルヲ以テ管ニ消極的ノミナラス積極的ニ公益ニ關スル事項ニ付キテモ亦之ヲ發スルヲ得ヘキコトヲ認メタルハ明ナリ或ハ本條ノ規定ヲ狹義ニ解釋シ公共ノ安寧秩序ヲ保持ストハ保安警察ノ目的ニシテ臣民ノ幸福ヲ増進ストハ行政警察ノ目的ニ外ナラス故ニ獨立命令ノ規定ノ範圍ハ警察事項ニ限ルモノナリト唱フル者アリト雖警察ナル觀念ハ強制手段ヲ以テ人民ノ自由ヲ制限スルコトヲ要素トナスモノナルヲ以テ本條ノ範圍ト同一ナラサルヤ勿論ニシテ本條ニ所謂

臣民ノ幸福ヲ増進ストハ強制手段ヲ以テ人民ノ自由ヲ制限スルコトアル場合ノミナラス廣ク教育農工商其他ノ公益事業ニ關スル總テノ場合ヲ包含スルモノト見ルヘキナリ

ハ、獨立命令ノ制限トシテハ憲法第二章ノ規定ハ獨立命令ヲ以テ制限シ得サルコトナリ、前既ニ之ヲ述ヘタルカ如ク獨立命令ノ範圍ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進スルニ在リト雖モ憲法中ニ法律ヲ以テ定ムヘシト爲シタル事項ハ獨立命令ヲ以テ定メ得ヘキノ限リニ在ラサルナリ例ヘハ憲法第二章ニ規定シタル事項ノ如キハ警察ノ目的ニ出ツル場合ト雖法律ノ規定ニ依ラサルヘカラサルカ如シ

ニ、獨立命令ノ效力ハ憲法第九條ニ於テ規定ス、即獨立命令ノ形式的効力ニ付テ獨立命令ト法律トノ關係如何ヲ見ルニ憲法第九條ニハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ストアルカ故ニ法律ヲ以テ獨立命令ヲ變更スルコトハ妨ケナキモ獨立命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコト絕對ニ之ヲ爲スヲ得サルナリ

## 第三、委任命令

委任命令トハ憲法上法律ヲ以テ定ムヘキ事項ヲ法律ノ委任ニ因リテ定メタル命令ヲ謂フ  
委任命令ヲ認ムヘキヤ否ヤハ我憲法上頗議論ヲ有スル所ナリ之ヲ否認スル者ハ曰ク、若シ委任命令ヲ認ムルトキハ遂ニハ一ノ法律ヲ以テ總テノ立法事項ハ命令ニ委任スルコトヲモ認メサルヘカ



ラス斯クノ如キハ法律ト命令トノ分界ヲ混同スルノミナラス所謂權力分立ノ立憲政体ノ精神ヲ没却スルニ至ルヘシト此ノ説ハ論理ニ於テ一貫セルカ如シ、固ヨリ憲法上ノ立法事項ヲ總テ命令ニ委任スルカ如キハ憲法ノ許ス所ニアラサルモサリトテ總テノ詳細ナル事項ニ至ル迄一々議會ノ協賛ヲ經テ法律ナル形式ニヨリテ之ヲ定ムルカ如キハ到底實際上不可能ナルコトニシテ、憲法亦之ヲ強用スルモノト解スヘキニアラス、問題ハ帝國議會カ其ノ法律ニ對スル協賛權ヲ拋棄シ得ルヤ否ヤニアラスシテ法律ノ其ノ立法事項ノ如何ナル方法ヲ以テ定ムルモ自由ナリヤ否ヤニ存ス故ニ委任命令ヲ認ムルモ憲法變更ニ涉ルモノニアラスシテ法ノ規定ノ方法ニ過キス從テ特定ノ場合ニ於テ特定ノ事項ニ限り法律カ其ノ規定ヲ命令ニ委任スルハ敢テ違憲ヲ以テ目スヘキモノニアラサルヘシ、吾人ハ此ノ理由ノ下ニ我憲法ノ下ニ於テ委任命令ヲ認メムトスルモノナリ

今委任命令ニ議シ目ヲ分チテ説明セムニ

イ、委任命令ノ制定者ハ其ノ基本タル法律ノ定ムル所ノモノニ屬ス

ロ、委任命令ノ規定シ得ヘキ範圍ハ法律ノ委任ニ依リテ定マルモノニシテ其ノ實質ハ立法事項ニ屬スルモノナリ若シ立法事項以外ノモノナルトキハ法律ノ委任ヲ要セサルカ故ニ之ニ關シテ委任命令ノ發生スルコトナシ又法律カ其立法事項ノ規定ヲ命令ニ委任スルニ當リテハ一定ノ限界ナク特別ノ明文ヲ以テ制限セサル以上ハ如何ナル事項モ命令ニ委任シテ之ヲ定メシムルコトヲ得ヘシ

ハ、委任命令ノ効力

委任命令ハ執行命令ト異ナリ、其ノ委任シタル法律ノ消滅ト同時ニ當然其ノ効力ヲ失フヘキモノニアラス蓋法律ハ其ノ命令ヲ發布スルノ權限ヲ委任スルニ止マリ委任シタル法律ト之ニ因リテ發布シタル委任命令ト効ハ力上何等ノ關係アラサレハナリ

第五、大權命令

大權命令トハ憲法上ノ大權事項ヲ定メタル命令ヲ謂フ詳言スレハ官廳ニ委任セラレサル統治權ノ作用中天皇ノ親裁ヲ必要トスル事項ヲ定メタル命令ヲ謂フ

今大權命令ニ關シ目ヲ分チテ説明スレハ

イ、大權命令ノ制定者ハ天皇ナリ

ロ、大權命令ノ規定シ得ヘキ範圍ハ憲法上ノ大權事項ニ限ル是此ノ命令ノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリ、而シテ憲法上ノ大權事項ノ何タルヤハ前既ニ之ヲ述ヘタルヲ以テ今再之ヲ説カス

ハ、大權命令ノ効力

大權命令ハ法律ト同等ノ地位ニ在リテ彼此互ニ相變更シ得サルヲ原則トス蓋憲法カ大權事項ヲ特定シタル精神ハ議會ノ于犯ヲ受クルコトナク特ニ天皇ノ獨裁ヲ以テ之ヲ遂行セシメムトシタルハ外アラサレハナリ



第五、法令ト命令トノ關係

法律ト命令トノ關係ハ命令ノ種類ニ依リテ異ナレリ即左ノ如シ

一、緊急勅令

緊急勅令ハ法律ニ代ルノ命令ナリ故ニ法律ト緊急勅令トノ關係ハ恰モ法律ト法律ノ關係ノ如シ、其ノ規定シ得ヘキ範圍ニ於テ同一ナルノミナラス其ノ効力ニ於テモ輕重ナク互ニ相變更シ又ハ廢止スルコトヲ得ルモノトス

二、執行命令

執行命令ハ法律ヲ執行スルカ爲メニ發スル命令ナリ故ニ其ノ規定シ得ヘキ範圍ハ其ノ法律ヲ執行スル以外ニ涉ルヲ得サルノミナラス其ノ効力ニ於テモ法令ノ下ニ在リテ、法律ヲ以テ執行命令ヲ變更シ得ルモ反對ニ執行命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

三、獨立命令

獨立命令ハ憲法第九條後段ニ基キテ發スルモノナルヲ以テ其ノ規定シ得ヘキ事項ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進スルカ爲メノ外發スルヲ得ス其ノ効力モ亦憲法第九條ノ規定ニ依リ法律ヲ變更スルコトヲ得サルナリ

四、委任命令

委任命令ハ法律ノ委任ニ基キテ發スル命令ナルヲ以テ其ノ規定シ得ヘキ範圍ハ委任ヲ受ケタル以

外ノ事項ニ亘ルヲ得ス而シテ法律ヲ以テ委任命令ヲ變更シ得ルモ委任命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

五、大權命令

大權命令ハ憲法上ノ大權事項ノ定ムル命令ナリ故ニ其ノ規定シ得ヘキ範圍ハ法律ト相互ルコトナキノミナラス、其ノ効力ハ至リテ強弱優劣ノ問題ヲ生スルコトナキナリ

第三節 條 約

條約トハ國家ト國家トノ間ニ締結セラレタル約束ヲ謂フ

天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス (13)

故ニ我帝國ニ於テ條約ノ締結權ハ天皇ニ屬ス問題ハ條約ノ國內法上ノ効力特ニ立法事項ヲ其ノ內容トセル條約ノ國內ニ於ケル効力如何ニ關ス而シテ是古來學說ノ最紛糾スル所ナリ

第一、條約ハ條約トシテ國內法上ノ効力ヲ有スルヤ說ヲ分チテ二トナス

第一說ニ曰ク、條約ハ其ノ儘條約トシテ公布スルノミニシテ直ニ國法トシテ臣民ヲ拘束スルノ力ヲ有スト其ノ理由トシテ述フル所ニ曰ク、條約ハ一面ニ於テ國際法上ノ契約タルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ國法タルノ効力ヲ有ス、條約締結權カ同時ニ國法ノ制定權ヲ含ムヘキハ國家ノ意思決定カーアリテ二アルヘカラサル當然ノ結果ナリ、條約ノ批准ハ國家ノ意思ノ決定ニシテ批准交換



ニ依リテ相手方ニ對スル表示アリ公布ニ依リテ國民ニ對スル表示アルモノト看ルヘシ故ニ條約ハ公布ニ依リテ國法タルノ拘束力ヲ有スルモノナリト

第二說ニ曰ク、條約ハ其ノ儘條約トシテ公布スルノミニテハ直ニ國法トシテ臣民ヲ拘束スルノ力ヲ有スルモノニアラス之ヲ以テ直接ニ官廳及ヒ臣民ヲ拘束セムトスルトキハ法律若クハ命令ニ依ラサルヘカラスト其ノ理由トシテ述フル所ニ曰ク條約ハ國家ト國家トノ間ニ締結セラレタル約束ニシテ條約ノ當事者ハ國家ナリ故ニ條約ハ國家自体ヲ拘束スレトモ直接ニ臣民ニ對シテ効力ヲ有スルモノニアラスト

案スルニ憲法ニ於テ臣民ニ對シテ拘束力ヲ發生スルニ關シ一定ノ形式ヲ有セサル事項ヲ内容トセル條約ニ關シテハ如何ナル形式ニ依リテ公布スルモ妨ケナク此ノ範圍内ニ於テハ第一說可ナリ然レモ憲法上法律ニアラサレハ定ムルヲ得サル事項ノ内容トセル條約ノ如キハ其ノ條約ヲ執行スル法律ヲ發布スルニ非レハ臣民ヲ拘束スル能ハサルモノナリト信ス若シ名稱ノ如何ニ拘ラス即チ名稱ノ法律タルト條約タルトヲ問ハス統治者トシテ意思ノ發表サル、以上ハ人民ハ之ニ對シテ服従スヘキモノナリトセハ條約ヲ以テ法律ヲ變更スルコト、ナリ立憲政治ノ精神ヲ破壞スルニ至ルヘケレハナリ、故ニ吾人ハ第二說ヲ採ル從テ我國ノ現今ノ慣例ニ於テ立法事項ヲ内容トセル條約ヲ單ニ條約トシテ公布スルノミニシテ直接ニ臣民ニ對シテ遵守ノ効力アリトナセルカ如キハ明ニ憲

### 法違反ナリト信ス

第二條約ノ執行法律ハ議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要スルヤ否ヤ

說ヲ分チテ二トナス

第一說ニ曰ク、條約ハ國家全体ノ意思ニヨリ成立ス而シテ國民一部ノ意思ハ之ニ依リテ拘束セラレサルヘカラサルニヨリ議會ハ條約履行ノ法律ニ協賛セサルヘカラスト然レトモ我憲法上協賛ハ自由ナルヘキモノニシテ義務的ノ協賛ト稱スルコトヲ得ス之レ我カ憲法第六十六條ニ皇室經費ニ關シテハ議會ノ協賛ヲ要セスト規定シ議會之ニ協賛ノ義務アリト規定セラレタル所以ナリ故ニ吾人ハ此ノ說ヲ採ラス

第二說ニ曰ク、條約履行ノ法律ハ議會ニ於テ自由ニ之ヲ可否修正スルコトヲ得ト

然レトモ此ノ說ニ從フトキハ條約履行ノ法律ノ否決ヲ條約ノ不成立ト解スルモ或ハ條約ノ單純ナル不履行ト解スルモ孰レニモセヨ信ヲ外國ニ失スルノミナラス外國ニ對シテ賠償ノ責任ヲ負フヲ避クル能ハサルニ至リ我カ憲法第十三條カ特ニ條約締結權ヲ天皇ニ專屬セシメタル精神ニ適合セス故ニ吾人ハ此ノ說ヲ採ラス

吾人ノ正當ト信スル所ニ依レハ條約ヲ締結スルハ單ニ空文ノ契約ヲ作ルカ爲メニアラスシテ一方ハ外國ニ對シテ條約ヲ結ヒ一方ハ國內ニ對スル法令ヲ制定セムカ爲メナルヤ明ナリ從テ命令事項



ノミヲ包含スル條約ニ付テハ少クトモ批准ハ一面外國ニ對シ契約ヲ成立セシムヘキ行為ニシテ一  
 面國內ニ對スル契約ノ裁可ト認メテ妨ケナキカ如ク法律事項ヲ包含スル條約ノ批准ノ効力モ法律  
 ノ裁可ト同一ノ効力ヲ生スルモノト云フヲ得ヘシ、斯クノ如キハ憲法第三十六條ニ法律ハ凡テ議  
 會ノ協賛ヲ經ルヲ要スト規定シタルヨリ成ハ法律カ議會ノ協賛ナクシテ單ニ批准ニヨリテ成立ス  
 ルモノト爲スハ不當ナリト論スル者アルモ條約ノ締結及ヒ其ノ効力ノ發生條件トシテ議會ノ協  
 賛ヲ必要トセス又立法事項ヲ内容トセサル條約ハ執行命令ノ發布ヲ必要トセサル我國ニ於テハ議  
 會ノ協賛ナクシテ法律ノ成立スル異例ヲ憲法第十三條ニ於テ認ムルモ不當ニアラサルノミナラス  
 此ノ如ク解セサルトキハ議會ノ協賛セサル場合ニ困難ヲ生スヘシ我憲法カ此ノ困難ニ豫想シテ諸  
 般ノ條約ヲ締結及ヒ其ノ効力發生ニ議會ノ協賛ヲ必要ト爲サ、リシニ拘ハラズ獨立執行法律ニ關  
 シテ議會ノ協賛ヲ要スルトナスハ其ノ當ヲ得タルモノニアラサルト信スレハナリ

大正七年三月二日印刷  
 大正七年三月四日發行

(非賣品)

長野縣西筑摩郡福島町六百四十一番地

發行者 泉 對 信 之 助

長野縣西筑摩郡福島町三十九番地

印刷人 芦 澤 清

長野縣西筑摩郡福島町三十九番地

印刷所 芦 澤 印 刷 所







終

